読書科学

第19巻 第1•2号（通巻 第71・72号） 昭和50年10月1日 発行（季刊）

絵本に関する母親の意識調査　出雲路 猛
竹ノ谷真知子
三井 和子

読書感想文指導の現状　増田 信一

人物の深さの係数について　阪本 一郎

71•72

日本読書学会

◇本　号　目　次◇

原　著

絵本に関する母親の意識調査
東京都世田谷区立烏山北小学校　出雲路　猛
川崎市立住吉小学校附属幼稚園　竹ノ谷真知子
三井和子　1

読書感想文指導の現状
——小・中学校の実践家210人のアンケートから——
東京学芸大学附属大泉中学校　増田信一　13

人物の深さの係数について
——物語絵本の研究のために——
立正女子大学　阪本一郎　24

資　料

「山本晴雄：読書と人間形成」について　〈1975年7月公開研究会報告〉　32
日本読書学会会員名簿兼昭和50年度役員選挙有権者名簿　34

会　報　62

日本読書学会役員（昭和49年4月1日～昭和51年3月31日）

会長（理事長）		倉沢　栄吉		
副会長(副理事長)		望月　久貴		
常任理事	出雲路　猛	岡本　奎六	阪本　敬彦	滑川　道夫
	福沢　周亮	増田　信一	室伏　武	
理事	今村　秀夫	大神　貞男	大村　はま	岡田　明
	尾原　淳夫	輿水　実	佐藤　泰正	野地　潤家
	深川　恒喜	椋　鳩十	村石　昭三	
監事	平沢　薫	山本　晴雄		
編集委員	阪本　敬彦	高木　和子	増田　信一	室伏　武
	John Downing	Donald Leton		

絵本に関する母親の意識調査*

東京都世田谷区立烏山北小学校　出雲路　猛
川崎市立住吉小学校附属幼稚園　竹ノ谷真知子
三井　和子**
荒川区立南千住幼稚園

Ⅰ　調査の目的

昨今，日本においても絵本の出版が盛んになり，新聞や雑誌などの書評でそれらの作品が紹介されるなど，絵本への関心が高まってきている。また，幼児にとっても絵本は，ごく身近なものになってきている。しかし，幼児に絵本を手渡したり，読みきかせたりしている母親はどうであろうか。母親の中には，絵本への関心がかなり高い人もいる。しかし，全体から見ればそれはまだ一部であり，ほとんどの母親の絵本への関心は，低いのではないだろうかとの疑問がある。そこで，母親自身の絵本に対する考え方，感じ方をとらえ，その意識をさぐるために，絵本に関する母親の意識調査を実施した。

Ⅱ　調査の内容と方法

1.　調査対象

東京都内の以下の６つの幼稚園に依頼し，幼稚園を通して５歳児の母親に調査票を配布した。

大田区立蒲田幼稚園
東京学芸大学附属小金井幼稚園
大田区立松仙幼稚園
板橋区立高島幼稚園
東京学芸大学附属竹早幼稚園

2.　調査期間

昭和49年９月中旬から10月中旬にかけて調査を実施した。

3.　回収率

園によって回収率に高低があったが，総回収集は274票，平均回収率は77.4％であった。

4.　調査の整理

項目ごとに単純集計をおこない，必要に応じて，クロス集計をおこなった。有意差検定にはカイ自乗法を用いた。回収人数を総度数とし，比率は百分率で表わした。２つ以上○をつける項目においては，回収人数を総度数とした。ひとつ○をつける項目において，２つ以上つけている場合，そのまま結果にくみいれた。（第１問の２，第７問の２）

Ⅲ　調査の結果と考察

この調査に回答した母親の平均年令は34.1歳であった。

第１問　家庭での絵本の読みきかせについて該当するものにひとつ○をおつけください。

1.　お子さんに絵本を読んであげますか。

よく読んであげる	34 人	12.4 ％
読んであげる	218 人	79.6 ％
読んであげない	22 人	8.0 ％
計	274 人	100.0 ％

この結果から，「よく読んであげる」と「読んであげ

* Mothers' concern about picture books.

** IZUMOJI, Takeshi (Karasuyama Kita Elementary School, Setagaya, Tokyo), TAKENOYA, Machiko (Sumiyoshi Kindergarten, Kawasaki-city) and MITSUI, Kazuko.

る」をあわせると92.0%となり，ほとんどの家庭で，程度の差はあるにしても，なんらかのかたちで絵本を読みきかせていることがわかる。

2. おもに，だれがお子さんに絵本を読んであげますか。

母親	190 人	69.3 %
父親	12 人	4.4 %
夫婦	45 人	16.4 %
祖父母	6 人	2.2 %
兄姉	29 人	10.6 %
その他	15 人	5.5 %
計	297 人	

やはり，読みきかせをするのは，「母親」が69.3%と一番多い。「夫婦」の中には母親も含まれる。そこで，「夫婦」の16.4%と「母親」の69.3%をあわせると95.7%となり，ほとんどの母親が，子どもに絵本を読みきかせていると考えてよいであろう。

「父親」だけでは，4.4%と少ない。「夫婦」の中には父親も含まれることから，「父親」の4.4%と「夫婦」の16.4%をあわせても，20.8%であり，「母親」の85.7%と比べると，まだまだ少ないといえる。一般に，子どもの教育は母親にまかせられ，父親の関与する割合が少ないといわれている。絵本の読みきかせについても，このような傾向がみられるとすれば，父親と子どもの触れあいの重要さが問われた場合に，これは問題になる。

「祖父母」が，2.2%（6人）と非常に少ない。これは現代の核家族化にともない，祖父母がいつしょに住んでいないということも大きいであろうが，一方，いる場合でも，家庭の中で，祖父母が絵本を読みきかせる機会そのものが少なくなっているとも考えられる。

このようにみてくると，絵本だけではなく，祖父母による語り聞かせの場そのものが，失われているということを表わしているのであろう。

3. お子さんは絵本を読むことを要求しますか。

よく要求する	81 人	29.6 %
要求する	156 人	56.9 %
要求しない	34 人	12.4 %
無回答	3 人	1.1 %
計	274 人	100 %

「よく要求する」と「要求する」をあわせると，86.5%となり，ほとんどの母親が，子どもは絵本を読んでもらうことを要求していると，答えている。

ところで，母親の読みきかせと，子どもの要求とのあいだに，どのような関係が見られるのだろうか。第1問の1の結果とクロスさせて見てみると表1のようになり，母親が「読んであげるか」ということと，子どもが「読んでもらうことを要求するか」ということの間には，関係があるといえる。($P<0.01$)

表1 読みきかせとこどもの要求

（単位：人，カッコ内は%，以下同様）

	よく要求する	要求する	要求しない	無回答	計
よく読んであげる	26(76.5)	8(23.5)	0	0	34(100)
読んであげない	1 (4.5)	4(18.2)	16(72.8)	1 (4.5)	22(100)

4. 幼稚園時代にお子さんをどのようにして絵本に親しませたいと思いますか。

ひとりで見たり読んだりして親しませたい	51人	18.6%
幼児のあいだは，読みきかせをして親しませたい	49人	17.9%
ひとりで絵本を見たりするとともに読みきかせをして親しませたい	166人	60.5%
わからない	4人	1.5%
その他	4人	1.5%
計	274人	100.0%

このような結果となったが，はたして母親は，それらの考え方にもとづいて，実際に読みきかせをしているのだろうか。そこで，第1問の1の結果とクロスさせ，「ひとりで見たり読んだりして親しませたい」と考えている母親と，「幼児のあいだは読みきかせをして親しませたい」と考えている母親とで，実際の読みきかせにち

がいがあるかを見たのが表２である

表２　母親の意識と実際

	よく読んであげる	読んであげる	読んであげない	計
ひとりで見たり読んだりして親しませたい	5 (9.8)	35(68.6)	11(21.6)	51(100)
幼児のあいだは，読みきかせをして親しませたい	3 (6.1)	44(89.8)	2 (4.1)	49(100)

表２によれば，「ひとりで見たり 読んだり して親しませたい」と考えている母親でも，78.4%が，実際は多かれ少かれ読みきかせていることになる。また，「読みきかせをして親しませたい」と考えているにもかかわらず，実際は，読み聞かせていない母親が4.1%（２人）いる。ただし，「読んであげない」というよりは，事情により，「読んであげられない」とも考えられる。また，「読みきかせをして親しませたい」とする母親のうち，実際に「よく読んであげる」者は6.1％（３人）である。彼女等が読みきかせを大切と考えていると解釈するなら，6.1％という数値は，少ないといっていいだろう。

第２問　家庭でのお子さんの絵本の見方について該当するものにひとつ○をおつけください。

1.　お子さんは絵本を好んで見ますか。

とくに好む	75 人	27.4 %
普　　通	194 人	70.8 %
見　な　い	5 人	1.8 %
計	274 人	100.0 %

ここで，「見ない」という子どもが，わずか1.8%（５人）であるということは，それだけどの子どもにとっても，絵本が身近な存在になってきている，といっていいのではないだろうか。

2.　お子さんは，絵本をどのように見ていますか。

どのページも細部にわたって注意深く見ている	63人	23.0%
ページによってこまかく見たり，パラパラ見たりしている	199人	72.7%
こまかいところは注意をはらわず，パラパラ見ている	10人	3.6%
わ　か　ら　な　い	2人	0.7%
計	274人	100.0%

子どもが絵本を注意深く見るということを考えた場合，「どのページも細部にわたって注意深く見る」ということは，それだけ，絵本の世界をさぐろうとする子どもの積極的な姿勢とみることができる。このことは，文字が読めるということとはべつに，絵本の世界を楽しんでいるといえるのではないだろうか。

3.　お子さんは，絵本の文字をどのように見ていますか。

いつも文字を読んだり，読もうとして注意をはらっている	130人	47.4%
文字を読もうとしていることもあるがまったく見ないこともある	121人	44.2%
文字にはまったく注意をはらわず，絵だけ見ている	23人	8.4%
わ　か　ら　な　い	0人	0.0%
計	274人	100.0%

絵の見方についてわからない母親は２人いたが，子どもの文字の見方についてわからない母親は，全くいない。ということから，５歳児をもつ母親は，文字についてはかなり関心をはらっている，といえるのではないだろうか。

第３問　お子さんに絵本を与える理由について，いくつでも結構ですから○をおつけください，また，とくに強いものには◎をおつけ下さい

想像力ゆたかな子にしたい	180人	65.7%
文字を覚えさせたい	69人	25.2%
読書の楽しみを知らせ読書に興味をもたせたい	221人	80.7%
絵に親しませたい	56人	20.4%
いろいろな知識を身につけさせたい	141人	51.5%
しつけに役立てたい	54人	19.7%
絵本を通して親子の関係を深めたい	50人	18.2%
自分自身が絵本を好きで子どもにも読んであげたい	21人	7.7%
子どもが読むことを要求するから	48人	17.5%
そ　の　他（　　）	2人	0.7%

無 回 答	1人	0.4%
計	843人	

注……数字は◎と○をあわせたもの

上位，3つの理由の順位は，どの園においてもかわらない（表省略……編集部）ということから，一般的に，母親は，「読書の楽しみを知らせ，読書に興味をもたせたい」「想像力ゆたかな子にしたい」「いろいろな知識を身につけさせたい」と考えて，子どもに絵本を与えているといってよいだろう。特に，「読書の楽しみを知らせ，読書に興味をもたせたい」が80.7％であるということから，絵本を読書の入口と考えている母親がかなり多いといっていい。

「文字を覚えさせたい」が25.2％である。一般に，小学校就学前における母親は，文字への関心が高いといわれる。子どもは，絵本を読んでもらっているあいだに文字に興味をもてば，自然に覚えていくであろう。しかし，親の側から絵本で文字を覚えさせたいという願いが強調されてはならない。なぜなら，本来，絵本は幼児の遊びの場として楽しいものであるはずであるのに，文字を覚えさせたいという母親の願いが強く出た場合には，子どもからその楽しい遊びの場をうばってしまう危険があるからである。

「自分自身絵本が好きで，子どもに読んであげたい」が7.7％（21人）である。われわれは，母親自身が絵本が好きであることを，大切なことと考える。なぜなら，読み手である母親の感動や心は子どもに伝わるものであり，子どもへの影響が大きいと思うからである。このことから，母親自身が絵本を好きになってほしいし，好きな人がふえてほしいものである。

第4問　最初に，お子さんに絵本を与えたのはいつごろですか。該当するものにひとつ○をおつけ下さい。また，覚えている方は（　）の中に，その絵本の名まえやシリーズ名などをお書き下さい。

0　歳	54 人	19.7 %
1　歳	138 人	50.4 %
2　歳	58 人	21.2 %
3　歳	17 人	6.2 %
4　歳	5 人	1.8 %
無 回 答	2 人	0.7 %
計	274 人	100.0 %

以上の結果から，無回答を除いた99.3％の母親が，最初に絵本を与えた時期を，覚えていることになる。

「1歳」で与えることが一番多く，50.4％である。何歳までに，どのくらいの子どもが絵本を与えられているのかを見るために，累積してみると，0歳で19.7％，1歳までに70.1％，2歳までに91.3％，3歳までに97.5％，4歳までに99.3％の子どもが絵本を与えられていることがわかる。

最初に与えた絵本の名まえ，およびシリーズ名などを書いた人の割合は，51.1％であった。このことから，99.3％の母親は，絵本を最初に与えた時期を覚えている。しかし，その絵本の名まえやシリーズ名などについて覚えている母親は，51.1％であることがわかる。ということは，半数近い母親は，どんな絵本を子どもに与えたかということを，ほとんど意識することなく，子どもに与えているといっていい。

一般に，絵本研究者たちのあいだで，“円筒絵本”は低俗視されているが，まだまだそれらの絵本を選ぶ母親が多いといわれる。ここでいう円筒絵本とは，おもちゃ屋や本屋の店先の回転塔に入って売られていて，150円～200円ぐらいのボール紙の厚さの絵本のことで，内容は，動物絵本，乗物絵本，童謡絵本などである。絵本名を書いた母親140名のうち，円筒絵本と思われるものを書いた母親は，102名（72.9％）である。ここ数年，各出版社から“赤ちゃん絵本”といわれるものが，数多く出版されてきているが，これほど，円筒絵本が買われていくのはなぜだろうか。いろいろ理由はあろうが，昔から同じでなんとなく安心感があり，しかも，安価で手軽なためであろう。

第5問　おかあさんご自身，子どものころ，絵本を見たり読んでもらったりした経験がおありですか。

経験がある	126人	46.0％
経験がない	49人	17.9％
覚えていない	99人	36.1％
計	274人	100.0％

母親が絵本に親しんだ経験のある場合とない場合とでは，子どもへの読みきかせに，差がでてくるのではないか。つまり，自分に経験があれば，それだけ子どもに読みきかせることが自然にできる。しかも，母親自身が読みきかせることが多くなるのではないだろうか。そこで第1問の1および2の結果とクロスさせて表3を得た。

表3　母親自身の経験と読みきかせ

	お子さんに絵本を読んであげますか			おもにだれが読んであげますか
	よく読んであげる	読んであげる	読んであげない	母親（含夫婦）
経験がある	14(11.1)	103(81.8)	9 (7.1)	109(82.2)
経験がない	8(16.3)	35(71.5)	6(12.2)	38(74.5)

「経験がある」と答えた母親について見てみると，「よく読んであげる」が11.1％，「読んであげる」が81.8％であり，両者をあわせると92.9％となる。また，「母親が読んであげる」場合が，82.2％である。「経験がない」母親について見てみると，「よく読んであげる」が16.3％，「読んであげる」が71.5％であり，両者をあわせると87.8％となる。また，「母親が読んであげる」場合が74.5％である。つまり，なんらかの形で子どもに絵本を読んであげている母親は，自分自身が絵本に親しんだ経験がある場合の方が数字の上では5.1％多く，母親が読んであげることも，7.7％多い。しかし，そこには，統計的な有意差は見られない。つまり，母親が子どもへの読みきかせをするということと，母親が自分の子どものころ絵本に親しんだ経験とか，その影響をうけたということとは，あまり関係がないということがわかる。

第6問　(1)お子さんのとくに好きな絵本がありましたらその絵本の名まえをお書き下さい。

(2)おかあさんご自身，好きな絵本がありましたらお書き下さい。また，その理由について（　）の中に簡単で結構ですからお書き下さい。

(3)おかあさんご自身好きになれない絵本がありましたらお書きください。またその理由について（　）の中に簡単で結構ですからお書き下さい。

この設問に対して，子どもの好きな絵本名を書いたものは156人（56.9％），母親の好きな絵本名を書いたものは106名（38.7％），母親の好きになれない絵本名を書いたものは22人（8.0％）であった。

つぎに，「子どもの好きな絵本」と「母親の好きな絵本」と「母親の好きになれない絵本」について，まとめてみたが，母親が好み，そして選んだ絵本が，子どもの好みと一致するということは，一家庭の母子間では，なかなかむずかしいことがわかった。しかし，「ふたりはともだち」，「ぐりとぐら」，「ヤンヤンムウくん」，「イソップ物語」，「ちびくろさんぼ」，「けんはへっちゃら」，「とこちゃんはどこ」「ももいろのきりん」「ひとまねこざる」等で，事例は少いが母子間の一致がみられた。また，子どもと母親の好きな本として挙げられた頻数の高いものは，「ちびくろさんぼ」と「ひとまねこざるシリーズ」で，前者は，子ども11名と母親1名，後者は子ども8名と母親2名が挙げていた。

名作絵本・デイズニー絵本と思われるものが，どのくらい子どもと母親に好まれているかを見ると，名作絵本は子ども49名と母親20名，デイズニー絵本は子ども25名と母親9名に挙げられていた。これらは，かなり好まれているとみてよいであろう。

母親が好きだと答えた絵本について，その理由を自由に記述したものを総括すると次のようになる。

(1)　絵本の絵について

ア．単純明快で夢のある絵

イ．主題と絵がぴったりしているもの

ウ．絵本の絵に可憐さがあること

エ．絵そのものが美しいこと
オ．絵が，子どもの心をとらえるもの

(2) 絵本のことばについて
ア．字の大きさ，形が，子どもにとって読みとりやすいこと
イ．ことばの使い方で話の運びがたくみでおもしろいこと
ウ．文節は短く，わかりやすいこと
エ．読みやすさが，現代っ子に通じることばになっているもの
オ．リズム感のあることばのひびきがあるもの
カ．ことばに楽しい遊びのあるもの

(3) 絵本のおもしろさ，楽しさについて
ア．発想がユニークであるもの
イ．ユーモアがあるもの
ウ．固有名詞に特徴のあるもの
エ．話のすじに，読み手の期待や好奇心を持たせるもの
オ．声に出して読んで楽しいもの
カ．子どもの日常茶飯事をあらためて気づかせるようなもの（子どもの身近な生活と関係のあるもの）
キ．お話の印象の鮮烈なもの

(4) 教育的教訓的であることについて
ア．ためになるもの（記述はばくぜんとしている。）
イ．道義的なことが教えられるもの
ウ．説明つきで，英語の勉強もできるもの
エ．絵から字を連想して覚えられるもの
オ．動物をいたわる心を教えているもの
カ．精神的成長的向上に役立つもの
キ．子どものしつけが自然に身につくもの

この項については，選んだ絵本が共通しており，「イソップのお話」がもっとも多い。これについで「はなさかじいさん」「みにくいあひるのこ」「アルプスの少女」等，円筒絵本に類するものが挙げられている。また，教育的な内容を理由として述べたものの多くは「あいうえおの本」と「A・B・C」を扱った初歩英語教育に関する絵本を挙げている。

(5) 母親自身の心情的嗜好について
ア．愛情が満ちあふれているもの
イ．力強い生き方を表わしているもの
ウ．人間の心の触れあいの豊かなもの
エ．内容自体が，ほのぼのと心のあたたまるもの
オ．小さくても平和で家庭的なもの
カ．やさしさ，いたわり，思いやりの表われているもの
キ．子どもの感情が満ちあふれているもの
ク．方言の美しさを生かしているもの

全体的には，心情的な理由に心の温かみを求めるものが多く，絵については表現のきれいさを求めているものが多いようである。その内容を見ると，絵について，同じ「美しい」「きれい」ということばを使っていても，それぞれの母親の見方，感じ方はさまざまである。そのようなさまざまな理由の中から，母親の傾向をとらえ，ひと口に述べることは容易でない。しかし，ひとりひとりの母親の好きな絵本の理由を見ていくことは，非常に興味深い。

この母親の心情的嗜好にかなった絵本の主なものをあげると，「ヤンヤンムウくん」「そりになったブナの木」「かもさんおとおり」「小さいおうち」「ちびくろさんぼ」「ぐるんぱのようちえん」「スーホの白い馬」「101匹わんちゃん大行進」「あめのひのおるすばん」「花さき山」「なつのあさ」「てぶくろをかいに」「げんきなマドレーヌ」「りゅうの目のなみだ」「泣いた赤おに」「モチモチの木」「少年とサクラ」「山の上のクリスマス」「マッチ売りの少女」等である。具体的に絵本をあげてみると，母親の心情的嗜好と，好ましい絵本の内容とが，かなり近接していることがわかる。

次に，母親の好きになれない絵本についてみると，

(1) 名作ものについて
ア．文がおそまつだから
イ．ダイジェスト版は，原作の大事なところが浅薄になっているから

(2) むかしばなしについて

ア．仮空の人物に感覚的についていけないから

イ．再話の方法が不愉快だから

ウ．話しことばになじめないから

エ．どぎつさが気になるから

オ．子どもに恐怖感を与えるから

ここで対象になった絵本は，「日本むかし話」「ももたろう」「さるとかに」「うらしまたろう」等であった。

(3) わらべうたについて

ア．絵が好きになれないから

イ．読むための手引きがないと意味がわからないから

(4) ＴＶの内容を扱ったものについて

ア．絵が気もちの悪いものだから

イ．殺伐としてロマンがないから

ウ．変身シリーズのようなものはグロテスクだから

以上についても，母親の情緒的な嗜好には，恐怖感，どぎつさ，殺伐さ等の，感覚的嫌悪感によるような反応が，とくに目立つようである。

第７問　絵本の購入について該当するものにひとつ○をおつけください（幼稚園で月ぎめで買っている絵本はのぞくものとします）

1.　月にどのくらい絵本を買いますか

0　さつ	78 人	28.5 %
1～2さつ	169 人	61.6 %
3～4さつ	17 人	6.2 %
5～6さつ	1 人	0.4 %
無回答	9 人	3.3 %
計	274 人	100.0 %

2.　年にどのくらい絵本を買いますか。

0　さつ	6 人	2.2 %
1～10さつ	156 人	56.9 %
11～20さつ	81 人	29.6 %
21～30さつ	12 人	4.4 %
31～40さつ	6 人	2.2 %
無回答	13 人	4.7 %
計	274 人	100.0 %

1か月に買う冊数と1か年に買う冊数を考えあわせると，月平均，1さつ買うか買わないくらいであり，多くても2さつぐらいである。また，年平均10さつ前後は買っているといえよう。

2.　絵本はおもにだれが選びますか。

母親	125 人	45.6 %
父親	33 人	12.0 %
子ども自身	84 人	30.7 %
夫婦で相談して	7 人	2.6 %
親子で相談して	84 人	30.7 %
その他	6 人	2.2 %
無回答	2 人	0.7 %
計	341 人	

やはり母親が絵本を選ぶという回答が，45.6%と最も多い。つまり，半分近くの子どもは母親の選んだ絵本を見ていることになる。とすれば，母親が，どのような絵本を選ぶか，すなわち，母親の絵本に対する見方，感じ方が重要になってくる。「夫婦で相談して」は2.6%と，非常に少ない。

3.　絵本を選ぶときの資料や，参考にするものは何ですか。（この項についてはいくつでも○をおつけください。）

新聞や雑誌などの書評や紹介などで	84人	30.7%
カタログなどで	22人	8.0%
研究者や専門家にすすめられて	11人	4.0%
幼稚園の先生にすすめられて	7人	2.6%
書店で直接みて	236人	86.1%
その他	7人	2.6%
無回答	8人	2.9%
計	375人	

「書店で直接見て」が86.1%と最も多い。ということは，書店がどのような種類の絵本を，どのように並べて

売っているかということによる影響が，かなり大きいと考えられる。

「新聞や雑誌などの書評や紹介などで」が30.7％である。この数値は多いとはいえないが，絵本の出版が盛んになるなかで，これから書評や紹介を参考にする場合が多くなることが予想される。

4. 現在書店で売られている絵本の値段についてどう思いますか。

ちょうどてごろな値段	33 人	12.0 %
高　　い	203 人	74.1 %
安　　い	4 人	1.5 %
わからない	33 人	12.0 %
無 回 答	1 人	0.4 %
計	274 人	100.0 %

「高い」と答えている母親が，74.1％と非常に多い。昨年来の諸物価の値あがりが絵本にも及び，以前は300～400円だった絵本が，大部分500円以上になり，初版が1000円前後のものも次々とでてきている現状である。過去1年間の値上りの例をあげれば，「花さき山」（岩崎書店，32ぺ）は480円が780円（値上率60％），「はけたよはけたよ」（偕成社，32ぺ）は450円が580円（30％），「かもさんおとおり」（福音館，64ぺ）は450円が800円（78％），「おやゆびちいちゃん」（同，76ぺ）は580円が980円（69％）などである。絵本は，ほかの本と比べて印刷費がかかるとはいえ，このようにだんだん高くなっていくのを見ていると，子どもの身近にあるべき絵本が，再び手もとから遠のいているように感じられる。

5. 絵本の値段やつくりについてどう思いますか。

多少ねだんが高くても，しっかりしたつくりで長持ちする方がよい	85人	31.0%
多少りっぱでなくても安い値段で手に入れやすい方がよい	162人	59.1%
値段はいくら高くてもいいから，豪華でりっぱな方がよい	1人	0.4%
わからない	8人	2.9%
その他	15人	5.5%
無回答	3人	1.1%
計	274人	100.0%

絵本の値段が高くなっていく現状のなかで「多少りっぱでなくても安い値段で手に入れやすい方がよい」と言っている母親が59.1％もいる。このような要求に答え，多くの子どもたちに安くていい絵本を手渡すために，どうしても，ペーパーバックのような絵本の廉価版の必要性を感じる。アメリカなどでもすぐれた絵本のペーパーバックの廉価版がでていることなどを考えた場合，日本でも真剣に，この問題にとりくむ必要性があろう。

一方，「多少値段が高くても，しっかりしたつくりで，長持ちする方がよい」が31.0％あり，しっかりしたつくりへの要求もかなり強いといえる。

第8問

1. 近くに絵本を借りられるところがありますか（表4）

表4 絵本が借りられる施設

	蒲田	小金井	松仙	高島	竹早	南千住	計
公立の図書館や図書室	33 (55.0)	14 (28.6)	24 (41.4)	6 (16.2)	13 (56.5)	38 (80.9)	128 (46.7)
幼稚園にある文庫や図書室	0	46 (93.9)	0	0	2 (8.7)	1 (2.1)	49 (17.9)
地域・家庭文庫	0	14 (28.6)	1 (1.7)	9 (24.3)	1 (4.3)	0	25 (9.1)
近くに借りられるところはない	19 (31.7)	0	28 (48.3)	16 (43.2)	5 (21.6)	6 (12.8)	74 (27.0)
その他	0	1 (2.0)	1 (1.7)	1 (2.7)	0	0	3 (1.1)
わからない	8 (13.3)	0	5 (8.6)	5 (13.5)	4 (17.4)	2 (4.3)	24 (8.8)
回収票数	60	49	58	37	23	47	274

2. その施設を利用しますか（表5）

表 5　施設の利用とその回数

	蒲田	小金井	松仙	高島	竹早	南千住	計
利用する	16 (26.7)	43 (87.8)	10 (17.3)	8 (21.6)	9 (39.2)	24 (51.0)	110 (40.1)
利用しない	40 (66.7)	5 (10.2)	43 (74.1)	29 (78.4)	11 (47.8)	21 (44.7)	149 (54.4)
無回答	4 (6.6)	1 (2.0)	5 (8.6)	0	3 (13.0)	2 (4.3)	15 (5.5)
計	60 (100.0)	49 (100.0)	58 (100.0)	37 (100.0)	23 (100.0)	47 (100.0)	274 (100.0)
月1回	3	3	5	1	4	6	22
月2回	3	11	3	4	1	9	31
月3回	1	10	0	2	0	5	18
月4回	4	7	1	1	1	2	16
月5回以上	3	12	0	0	1	1	17
計	14	43	9	8	7	23	104

表6　借りられる施設がある人が，それを利用する率

	蒲田	小金井	松仙	高島	竹早	南千住	計
借りられる施設がある（人）	33	49	25	16	14	39	177
利用する（人）	16	43	10	8	9	24	110
利用率（%）	48.5	87.8	40.0	50.0	64.3	61.5	62.1

東京都は昭和45年東京都図書館振興対策がたてられ，昭和47年までには都内23区で66館から78館へ，三多摩で10館から24館へと図書館数が増加している。しかし，われわれの調査結果を見ると，「公立の図書館や図書室（含む児童館）があると答えている母親は，南千住で80.9%，高島で16.2%と，その差が大きすぎる。また，「借りられるところはない」が27.0%と，現状を見ると，まだまだ満足できる状態でないといえるようだ。

表4により，高島幼稚園と小金井幼稚園を見ると，両園とも他と比べて，「公立図書館」が少なく，「地域家庭文庫」が多いことがわかる。ということから，公立図書館が少ないために，その地域の母親や子どもたちの要求により，地域家庭文庫が生まれてきたのであろう。

6園のうち，貸し出しをおこなっている図書室があるのは，小金井幼稚園だけである。小金井幼稚園での施設の利用率は，87.8%と，非常に高い。また，利用回数も多い。利用率が高い理由として2つ考えられる。ひとつは子どもの送り迎えに毎日幼稚園にくる母親にとって，幼稚園に図書室があるということは，日常的にそして気軽に，本を借りられるからだと思われる。ちなみにこの貸し出し制度は，母親の自主的運営によるということである。このような傾向からみて，幼稚園にも図書室を設ける必要性を感じる。さらに，地域ごとに児童図書館の開発とその普及が期待されている。

表6から，特に利用率の高い小金井幼稚園を除いた平均利用率を算出すると約53%となる。つまり設備があるところでは2人に1人が利用していることになる。

第9問　おかあさんご自身，絵本の研究会などに参加したことがありますか。参加したことのある方は具体的にお書きください。

ある	8人	2.9%

な　　い	265 人	96.7 %
無 回 答	1 人	0.4 %
計	60 人	100.0 %

参加したことのある母親はわずかである。しかし，「その他の意見」のところで，研究会などがあれば，参加したいという意見もみられた。ほかにも，きっとこのような母親がいるのであろう。もっと身近な所に研究会や講演会などの場を積極的に設けていけば，多数の母親が参加するようになろう。

第10問　その他，絵本についてご意見がありましたら，どんなことでもお書きください。

(1) 名作ものについて

ア．かなり煩雑な再話や翻案ものがでまわっている。

(2) ＴＶの内容を扱ったものについて

ア．怪獣ものばかりで困まっている。

イ．ＴＶの影響は，子ども自身の選択をテレビマンガ本にかたよりすぎている。

ウ．動物を扱いながら，その生から死に至る生物の神秘をわからせる本がでてよい。

Ⅳ むすび

この研究では，母親の絵本への関心はまだ低いのではないかという疑問にもとづいて，母親の絵本に関する意識調査を実施し，考察してきた。その結果，一概に関心が低いとはいいきれないようである。なぜなら調査結果によると，92.0%が絵本をなんらかのかたちで子どもに読みきかせているし，また，母親が読みきかせる場合が85.7%にも及んでいる。また，絵本を与える理由についても，「読書の楽しみを知らせ，読書に興味をもたせたい」が80.7%，「想像力ゆたかな子にしたい」が65.7%，「いろいろな知識を身につけさせたい」が51.5%と，かなり妥当な理由があげられている。

しかし，詳しく見ていくと，２歳までに絵本を与える場合が91.3%にもなるが，その与える絵本については，70%以上がいわゆる円筒絵本といわれるものである。円筒絵本だけに豊かな想像力を啓発することが期待できるだろうか，読書の楽しさを感じさせる芽が安易に扱われてはいないだろうか。また，「好きな絵本」の中には名作絵本が60余冊入っている。この名作絵本のほとんどが名作ダイジェスト版だとしたら，その名作ダイジェスト版で，読書の楽しみを感じさせることができるだろうか。原作を縮め，筋を追うだけのようになってしまったダイジェスト版に，何が期待できるだろうか。もし読書の楽しみをというのであるなら，原作が十分読める年令になった時，原作に触れた方が，ほんとうの意味での読書の楽しみを味わうことができるのではないだろうか。

このように考えてくると，現在の母親の絵本に対する考え方の内容が，まだまだ問われていかなければならない，といっていいだろう。

われわれは，アンケート作成にあたり，絵本を子どもに手渡したり，読みきかせたりする母親，また，母親の感動や感じ方などが，子どもに与える影響の大きさということなどを重要視してきた。そして，今回の意識調査においても，母親が絵本を読みきかせ，母親が絵本を選ぶ場合が多く，子どもと父親が，絵本により触れ合う機会が少ないという結果を得た。しかし，これは，望ましい結果ではない。母親ばかりでなく，父親も子どもに絵本を読みきかせてほしい，と感じたのである。

以上，調査の結果におけるわれわれの考えについて述べてきた。ここでわれわれは改めて，幼児にとって絵本とは何か，また，われわれ自身にとっても絵本とは何か，さらによい絵本とは何かについて，さらに広範囲な究明が必要になってきている。

SUMMARY

A sample of 274 mothers of five year old children who were enrolled in six kindergartens in different areas of Tokyo answered a questionnaire on picture books. The frequencies of their responses were tabulated as follows.

At home, children were read picture books (80%), or were read to often (12%). Only 8% of the mothers answered that their children were not read to at home. Mothers (69%) were the person who read picture books to their children at home, followed by both parents (16%) and elder siblings (11%). Fathers (4%) and grandparents (2%) rarely read to them. Children who "wanted" to be read to or "often wanted" to be read to were 57% and 30% respectively. Those who "did not want" to be read to were only 12% of the total.

There was a significant positive relationship between the children's desire to be read to, and whether the children were read to or not.

Most mothers (61%) emphasized the importance of children reading picture books by themselves in addition to the parents or other person reading to them. Only 19% of them solely emphasized children's independent reading, and 18% solely emphasized parents' or others' reading to children. In fact, however, 78% of the mothers who emphasized only the importance of children's reading also read picture books to their children. Only 4% of the mothers who empasized parents' reading to children did not actually do so.

Some mothers (27%) reported that their children liked to look at or to read picture books very much; only 2% answered that their children did not like to look at or to read them. 73% of the mothers responded that their children viewed or read some pages carefully, according to their interest; and 23% answered that their children viewed every page of a picture book in detail. 47% of the mothers reported that their children always read, or tried to read, letters in picture books, and 44% said that their children sometimes tried to read leters. Those who answered that their children did not pay attention to letters and saw pictures only were 8%.

Mothers answered that they gave picture books to their children because

(1) they wanted to let children know the joy of reading and to foster their interest in reading (81%)

(2) they wanted their child to develop rich imagination (66%) and

(3) they wanted to give their child information and knowledge (52%).

20% of the mothers gave the first picture book to their child when he or she was less than 1 year old, 50% when their child was 1 year old, 21% when 2 years old, 6% when 3 years old, 2% when the child was 4 years old. Thus, 99% of the mothers could identify when they started giving picture books to their child. Only 51% of the mothers could recall the title of the first picture book. Although mothers reported the titles which their child preferred as well as those which the mothers themselves preferred, the child's preference and the mother's preference rarely coincided.

Picture books were bought at the rate of about one-two titles a month, or about ten titles a year. They were selected by the mothers (46%), children (31%), both parents and children (31%), and fathers (12%). They were selected mostly by browsing at book stores (86%) followed by book reviews in newspapers

and magazines(31 %). Other information sources were rarely used.

The majority of mothers thought that picture books were expensive(74 %)and only 12 % answered that they were reasonable. (In Japan, the price of picture books as well as other books went up 30 %–80 % in fiscal year 1973.) 59 % of the mothers wanted less-expensive picture books, even though their appearance might not be as good. On the other hand, 31 % wanted sturdy, long-lasting books even though they might be a little more expensive.

To the question about the availability of nearby facilities from which they can borrow picture books, mothers answered differently, according to the areas in which they lived. In one kindergarten, 48 % of the mothers responded that there was no such place, whereas in another kindergarten nobody gave this response. Only 3 % of the mothers were active in attending study meetings of picture books.

読書感想文指導の現状*

——小・中学校の実践家210人のアンケートから——

東京学芸大学附属大泉中学校
増田信一**

1 問題提起

子どもたちに読書感想文を書かせることは，幅広くおこなわれているし，各種の読書感想文コンクールも活発であるのに，読書感想文の指導となると，あいまいな点が多い。そのあいまいさが放置されているために，書かせっぱなしの場合が多いし，子どもたちの読書力も高まらないし，読書の生活化も実が上がっていない。しかも，読書感想文指導の実態も正しく把握されていない。

そこで，読書感想文の指導がどのようにおこなわれているのかという実態をつかむために，全国の小・中学校の読書指導の実践家を対象として，26項目にわたる「読書感想文についてのアンケート」を実施した。

アンケートの対象とした人々のわくは，

A　全国大会またはブロック大会で過去五年間に読書指導について発表した人（小・中学校各50名）

B　Aの実践家が推薦する現場人（Aの人1名が1名を推薦する）

C　日本読書学会会員の小・中学校の教師（50）名

この三つのわくを設定して，合計250名の方にアンケート用紙を郵送した。

アンケート対象者をこのように限定したのは，アンケートの内容上，かなり専門的な判断を必要とするためである。そのために，この調査は小・中学校の読書感想文指導の実態をあらわすのと同時に，現場を代表するリーダーたちが，読書感想文の指導に対してどういう考えをもっているのかを把握することを調査のねらいの一つとした。

回答を寄せられた人々の地域別の分布は以下のとおりである。（　）内の数字は女性の人数を示す。

地域	小学校	中学校	計
東京	43 (19)	37 (13)	80 (32)
関東	9 (5)	14 (3)	23 (8)
甲信越	12 (3)	5	17 (3)
東海	3	4	7
近畿	7 (2)	11 (3)	18 (5)
中国	2 (1)	8 (3)	10 (4)
四国	7 (4)	1	8 (4)
九州・沖縄	1 (1)	14 (3)	15 (4)
北陸	3	6 (1)	9 (1)
東北	5 (1)	5 (2)	10 (3)
北海道	11 (1)	2	13 (1)
計	103 (37)	107 (28)	210 (65)

2 読書感想文をどの程度書かせているか

問1　年間を通して，読書感想文をどのくらい書かせていますか。

* A study of teachers' opinion of book reports.

** MASUDA, Shinichi (Oizumi Junior High School, Tokyo Gakugei University)

	小	中	計
ア 全然書かせない	0	2.8	1.4
イ 1～2回	23.3	32.4	28.0
ウ 3～4回	33.0	49.0	41.2
エ 5～6回	20.4	6.5	13.3
オ それ以上の回数	23.3	9.3	16.1

(数字は%, 以下同じ)

問2 年間を通して，読書ノートや読書カードなどを書かせていますか。

ア 全然書かせていない	8.7	21.3	15.2
イ 読書ノートなどを与えるだけ	2.9	11.1	7.1
ウ 定期的に点検してやるだけ	36.9	33.3	35.0
エ 計画にそって書き方を指示	20.4	23.2	21.8
オ 競争させ生活化している	28.2	10.2	19.0
無答	2.9	0.9	1.9

問3 読書感想文を書かせる上で，障害となっていることの最大の原因は，次のどれだとお考えですか。

ア 本を読む意欲がない	2.9	11.3	7.3
イ 本は読むのだが，書く意欲がない	53.9	46.1	49.8
ウ 教師が読んでやる時間を生み出せない	23.1	30.4	26.9
エ どう評価したらよいかわからない	6.7	4.4	5.5
オ 事後の指導をどうしたらよいかわからない	6.7	1.7	4.1
無答	6.7	6.1	6.4

問4 あなたの勤務校では，校内の読書感想文コンクールを実施していますか。

ア 一回も実施したことがない	30.1	23.2	26.5
イ 何年めかに一回実施している	7.8	5.6	6.6
ウ 年に一回実施している	56.3	58.3	57.4
エ 年に二回実施している	4.9	8.3	6.6
無答	0.9	4.6	2.9

問5 あなたがごらんになっている児童生徒の読書感想文には，次のどのタイプが多いですか。

ア 感じたことを単純に書く	51.4	45.4	48.4
イ 理解したことを中心に書く	23.8	20.9	22.3
ウ 考えたことをまとめて書く	19.0	25.5	22.3
エ 自分の行動や思考を変えようとする	2.9	6.4	4.6
オ 自分を変革していく	2.9	0.9	1.9
無答	0	0.9	0.5

問1の「年間何回書かせているか」に対する回答は，小・中学校とも「3～4回」がもっとも多い。これは読書指導の担当者が国語科の教師であり，国語科の年間計画における読書単元（もしくはそれに準ずるもの）と夏休みなどの長期休暇での課題として読書感想文が課せられていることを示す。なお，ここでいう「読書感想文」とは，読書ノートやメモなどは区別したものである。

問2の「読書ノートや読書カード」などを年間通して書かせている学校が大部分であり，読書指導が定着していることを示している。(アンケート対象者の層からみて，この数字は全国的平均値とはかけはなれているのは仕方ない。)

書かせている学校が大多数であるのにもかかわらず，意識的な指導がなされているのは，その半数にしか過ぎないことは，注目に値する。効果的な指導の例としては，

発言1 図書館テキストを利用し，一冊読み終えた時点で，長文であろうと短文であろうと記入させている。定期的な点検もあり，読んだり話し合ったりしている。

発言2 感想用紙を与えておき，書いてきたものを見てやっている。2月24日現在一番多い児童は130枚，一番少ない児童は15枚である。

発言3 ごく簡単な読書カードをとることをふだんは奨励している。

発言4 国語ノートに書かせたり，夏休みにノート一冊を使わせているが，いつも書くとは限らない。個

人の自由・自主にまかせている。

などが報告されている。

問3の「読書感想文を書かせる上での障害の原因」については,「書く意欲がない」の児童生徒側に原因があるとするものが約半数を占めている。意欲を持たせることも指導の一つであるだけに,この段階にとどまっていることは,指導の入口でストップしている状態である。この点についての発言は,

発言5　読書感想文を書かせることの意味が教師に十分理解されていない。

発言6　読書感想文を書かせることによって,読書ぎらいにするのではないか。

発言7　目的的に書かす以外,文章化させないでいる。

発言8　国語科の成績の中に入れるとよく書く。

などの意見があった。アンケートを作成している段階では,「評価」,「事後の指導」にもっと数が集まるだろうと期待していたが,その期待はうらぎられてしまった。やはり,書かせっぱなしの傾向がこのような状態をもたらしているのだということになると思われる。

問4の「校内読書感想文コンクール」は,過半数の小・中学校が年一回実施しているが,その反面で,全然実施していない学校が約四分の一に達している。全校的な指導体制を作るのにいくつかの困難点が含まれているわけである。

問5は読書感想文の質的な面についての調査であり,問1～問4とは異質のものである。小・中学校とも「感じたことを単純に書く」が半数前後を占めている事実は,読書感想文の質的な浅さを示すものであり,「考える読書」とはほど遠い次元で読書感想文が書かれている証拠となる。「感じたことを単純に書く」程度では読書メモではあり得ても,読書感想文のわくに入れるのを疑問に思うくらいである。このことは,現在の読書指導が読書習慣の育成や領域や範囲の拡充に比重をかけすぎていて,思考力の育成や情操面の育成にまで力を注いでいないことを端的に示しているとみてよいだろう。

3　読書感想文に対する考え方はどうか

問6　読書感想文を書かせることの意義について,次のどれだと考えて指導していますか。

	小	中	計
ア　学校教育の中でとりあげられるようになったから	0	3.6	1.9
イ　読書活動のしめくくりとして一定の形に残す必要があるから	2.9	1.8	2.4
ウ　読書感想文コンクールなどが活発におこなわれているから	1.0	1.8	1.4
エ　読書感想文を書くことによって成長のあとが記されるから	22.3	16.4	19.3
オ　読書感想文を書くことによって読書活動が深まるから	73.8	75.5	74.4
無答	0	0.9	0.5

問7　読書の楽しさと読書感想文を書くつらさとは相反するように考えられますが,この点について,次のどれだと考えて指導していますか。

ア　ある程度のつらさをともなうことは当然のことだ	4.8	17.1	11.2
イ　読書感想文をあまり書かせないように配慮している	12.5	15.3	14.0
ウ　読書感想文を書く場面を効果的にくふうしている	57.7	48.7	53.0
エ　読書感想文を書く喜びを積極的に養っている	23.0	11.7	17.2
オ　強引に書かせ,しかも,つらさを感じさせないようにする	1.0	3.6	2.3
無答	1.0	3.6	2.3

問8　児童生徒の中には,読んだ本について全面的に感動して読書感想文を書くことがありますが,それが本そのものに対する教師の考え方といちぢるしく違う場合（とくに,戦争もの・セックスもの・人生論・詩集など),どのように指導しますか。

ア　どのように感じても自由だからそのままにしておく	8.6	1.8	5.1
イ　こんな考え方はよくないとしかりつける	0	0	0

ウ　そういう本ばかり読んではいけないと言ってやる	8.6	8.1	8.3
エ　「先生の考えはこうだよ」と説明してやる	52.3	53.2	52.8
オ　教師がよいと思う本を読ませて比較させる	28.6	30.6	29.6
無答	1.9	6.3	4.2

問9　市町村や県単位の大規模な読書感想文コンクールがいくつも実施されていますが，このことについてどうお考えですか。

ア　実施していることを知らない	1.0	1.8	1.4
イ　参加する気持ちはない	14.4	6.4	10.3
ウ　おつきあいで参加している	21.1	22.0	21.6
エ　積極的に参加し啓蒙する	42.3	39.5	40.9
オ　特定の型にはまるのを警戒しながら実施している	20.2	29.4	24.9
無答	1.0	0.9	0.9

問10　マンガに親しむ児童生徒は多いのに，マンガの読書感想文はあまりないようです。マンガの読書感想文の是非についてどうお考えですか。

ア　マンガの読書感想文は不要だ	10.7	9.2	9.9
イ　とくには必要ない	34.0	19.3	26.4
ウ　どんな形でもよいから書かせたい	30.1	24.8	27.3
エ　ぜひ書かせたい	2.9	21.1	12.3
オ　深みのあるものを書かせたい	17.4	22.9	20.3
無答	4.9	2.7	3.8

問6の「読書感想文を書かせることの意義」については，「読書活動が深まるから」が約四分の三を占めている。問5の「感じたことを単純に書く」が半数を占めていることと合わせて考えると，教師の意識と指導の実態との間には大きなギャップがあることがわかる。

問7の「読書の喜びと読書感想文を書くつらさ」に対しては過半数が「書く場面を効果的にくふうしている」と答えているが，問3の「本は読むのだが読書感想文を書く意欲がない」が多いことを合わせて考えると，「書く場面を効果的にくふうしている」が，その効果は上がっていないということになる。

問8は，読書感想文に対して教師がどの程度指導性を発揮しているかを問うものである。「先生の考え方はこうだよと説明してやる」が過半数を占めているが，そうすることによって，「こんな考え方はよくない」ときめつける場合も出てきそうである。「イ」の回答が0であるのが印象的だが，事実はどうであろうか。「エ」の説明のしかたについては，

発言9　矛盾点や考えの不足する所を問題として指摘してやるまでで，先生はこう思うとまでは書かない。

発言10　生徒と個人的に話し合いをすることがある。

発言11　生徒と話し合って認めるものは認めてやる。

という提案があった。

問9の「市町村や県単位の読書感想文コンクール」には約四割の学校が積極的に参加しているが，「特定の型にはまるのを警戒しながら実施している」が，中学校で三割近くあるのは注目すべき点であろう。

問10の「マンガの読書感想文の是非」については，選択肢の回答以外に，記述による意見が非常に多かった。五つの選択肢も集中したものはなく，意見が分れている。小学校の「エ」「オ」が20.3パーセントなのに，中学校の「エ」「オ」は44パーセントであり，積極的に書かせようとする意欲を中学校に感じられる。中には，「マンガを読書感想文の対象として考えたことがない」人や，「マンガがどんなものをさしているのか」と判断に苦しんだ人もいる。

発言12　マンガは軽読書として，学校教育における読書の領域からはずしたいと思う。

発言13　最近の子どもたちが読んでいるマンガは“サザエさん”などのようなほほ笑ましいものはなく醜悪。しかし禁止はだめ。マンガを読んでの感想文が生まれれば，それはそれでよいと思う。

概して，マンガをつき放しているか，具体策がないままに放任しているものが多い。私が全国の中学三年生

4000人を対象として実施した調査（注1）によると，「中学生のマンガに対する考え方」は，

選択肢の項目	男	女
1 おもしろいし，頭の休息にはもってこいである	45.0	36.3
2 おもしろいだけでなく，いろいろな知識を得ることができる	15.2	19.0
3 痛快さや意外さへのあこがれを満足させてくれる	16.4	24.8
4 絵を見るだけで楽しいし，人物などの動きがそのままわかってよい	9.1	8.6
5 同じような内容のものが多いから，つまらない	9.0	8.1
6 下品なものが多いから，あまり興味がない	3.7	1.3
無答	1.6	1.9

きわめて明解であるのに対して，教師側に具体的な方策がないのは困ったことである。読書感想文を書く意欲がない児童生徒が約半数存在する現状からして，マンガを読書感想文の対象として考えることが重要なポイントになると思う。子どもたちの読書感想文を分析していくと，名作文学でさえマンガ的に読みとって感想文を書いている者がかなりいる。マンガと名作文学を関連させ，比較させる指導が出てきたらおもしろいと思う。

4 読書感想文の指導観はどうか

問11 読書感想文を書かせる前に，どのような準備をしていますか。

	小	中	計
ア 前もって何もしていない	8.6	5.4	6.9
イ 前から書くことを予告しておく	34.3	44.6	39.6
ウ 読書ノートや読書カードをつけさせて，そこから書かせる	13.3	10.7	12.0
エ 構想メモを作らせた上で，きちんとした形で書かせる	39.0	26.8	32.7
無答	1.9	0.9	1.4

問12 読書感想文の指導と作文指導との関連をどのようにしていますか。

ア 別に何も関連させていない	14.0	12.8	13.4
イ 正しい表記のしかたで書くことに重点をおいている	3.7	5.5	4.6
ウ 文章構成をしっかりさせることに重点をおいている	27.1	23.9	25.5
エ テーマのしぼり方に重点をおいている	48.6	45.9	47.2
オ 作文カリキュラムの中に位置づけて，徹底して指導する	4.7	6.4	5.6
無答	1.9	5.5	3.7

問13 読書感想文の指導と話し合い指導との関連をどのようにしていますか。

ア 別に何も関連させていない	17.3	26.6	22.1
イ 読んだことをグループなどで話し合わせてから書かせる	30.8	17.7	24.0
ウ 読書感想文を見せ合って，おたがいに批評させる	25.0	33.6	29.5
エ 読書感想文を読み話し合ったあとで，さらに書きなおさせる	17.3	18.6	18.0
オ 集団思考だけでなく，教師の助言を加えて書きかえさせる	5.8	3.6	4.6
無答	3.8	0	1.8

問14 読書感想文にあらわれた話題について，次のどれを優先して指導していますか。

ア 本のあらすじを正しくつかんでいる	0.9	0	0.4
イ 読み手の反応がよく出ている	28.3	21.6	24.9
ウ 本のテーマをよく理解している	15.1	15.3	15.2
エ 自分の考えをよくまとめている	51.9	50.5	51.2
オ 価値の高い話題についてまとめている	3.8	10.8	7.4
無答	0	1.8	0.9

問15 読書感想文の記述面について，次のどれを優先して指導していますか。

ア 特別に力を入れていない	8.8	4.5	6.5

イ 表記の正しさ	3.9	7.2	5.6
ウ 表記のていねいさ	5.8	2.7	4.2
エ 文章構成のたしかさ	43.6	44.2	43.9
オ 適切なことばや表現のしかた	37.9	37.8	37.9
無答	0	3.6	1.9

問16 読書感想文の感動面について，次のどれを優先して指導していますか。

ア 特別に力を入れていない	0	1.9	0.9
イ 第一印象をすなおに書くこと	27.6	11.1	19.3
ウ 本を正しく理解した上の感動であること	25.7	35.2	30.5
エ 自分自身が変化し向上する感動であること	21.0	31.5	26.3
オ 感動が生活化して，自分自身の血となり肉となっていること	25.7	19.4	22.5
無答	0	0.9	0.5

問11の「事前の準備」では，「予告しておく」と「構想を作らせる」の二項目に集中しているが，中学校が予告に比重がかかっているのに対して，小学校ではより積極的に構成メモを作らせ，きちんとした形で書くことに力を注いでいるのがうかがえる。

問12の「読書感想文の指導と作文指導との関連」では両者を積極的に結びつけようとする考えが強く，しかも「テーマのしぼり方に重点をおいている」が半数近くあるのは，読書感想文の性格上有効な方法である。

問13の「読書感想文の指導と話し合い指導との関連」では，積極的に話し合い指導をとり入れる考えが大多数を占めている。読書感想文が国語科の授業の中で実施されている現在，グループ活動や集団活動を重視するのは当然のことである。その中で「話し合いのあとでさらに書きなおさせる」のは共同批正の面だけでなく，思考を深め，自己を確立していくための方法として考えたいものである。

問14の「読書感想文の話題」については，「自分の考えをよくまとめている」ことが過半数を占めているのは当然のこととしてうなずける。**問15**の「読書感想文の記述面」についても，「文章構成のたしかさ」がいちばん多いのは，教師の意識の高さとして立派であるが，児童生徒の実態がともなっていないところに問題が残る。

問16の「読書感想文の感動面」については，選択肢で集中したものはなく，回答者の考えが大きく分かれている。発達段階によって指導のポイントが違ってくるはずであるが，その点を小学校の担当学年別にみると

	イ	ウ	エ	オ
低学年	**39%**	22%	13%	26%
中学年	22%	**34%**	19%	25%
高学年	24%	18%	**32%**	26%

学年が進むに従って，第一位が「イ」→「ウ」→「エ」と移っている。なお，「オ」がどの学年でも二位を占めている点は注目に値する。それに対して，中学校では「本を正しく理解した上での感動であること」がもっとも上位にあることは何を示しているのであろうか。読書材そのものがむずかしくなっていくことは事実であるが，そのために，主体的な読書感想文を書くための障害となっているとしたら問題である。

5 読書感想文の評価をどうしているか

問17 読書感想文の評価をする上で，もっとも力を入れているところは，次のどれですか。

	小	中	計
ア 特別な力点はおいていない	4.9	0	2.4
イ 本を正しく理解して書いているか	11.6	16.5	14.1
ウ 読書感想文を書くことによって新しい発見ができたか	32.0	22.9	27.4
エ 自分自身のテーマが把握され高められているか	17.5	32.1	25.0
オ 読書活動が生活化され，人間形成の上に役立っているか	33.0	25.7	29.2
無答	1.0	2.8	1.9

問18　読書感想文を評価したあと，教師のことばをそえてやっていますか。

ア　検印だけを押してやる	0	1.8	0.9
イ　評価点だけをつけてやる	1.0	7.3	4.2
ウ　一言が二言書きそえてやる	59.6	54.5	57.0
エ　批評や感想を書いてやる	8.6	12.7	10.8
オ　書いてやるだけでなく，授業中に読ませてほめてやる	29.8	15.5	22.4
無答	1.0	8.2	4.7

問19　読書感想文に表記上のミスが目立つ場合，次のどのような処置をとりますか。

ア　検印を押すだけでなおさない	0	0	0
イ　読書感想文の内容面に重点をおくからなおさない	3.9	2.8	3.3
ウ　特に目立つ点だけについてなおしてやる	68.9	63.0	65.9
エ　できるだけなおしてやる	23.3	26.8	25.1
オ　なおしてやるだけでなく，授業中にていねいに教えてやる	3.9	5.6	4.8
無答	0	1.8	0.9

問20　読書感想文の表記ミスを，読書感想文を評価する上で，どのように扱いますか。

ア　さっと見て評価するだけだから，表記ミスにはふれない	0	1.9	0.9
イ　表記ミスの多少によって減点していく	1.9	2.8	2.4
ウ　なおしてはやるけれども評価には直接関係させない	39.8	37.0	38.4
エ　ほかの作文指導で表記ミスをとりあげるから，ふれない	14.6	3.7	9.0
オ　減点はしないが，表記ミスをなくすように意識させる	43.7	50.9	47.4
無答	0	3.7	1.9

問17 の「読書感想文の評価」については，さすがに「イ」は少ないが，中学校に「本を正しく理解して書いているか」が16パーセントも占めているのは，問16の「ウ」と共通している。「ウ・エ・オ」はかなり高度なものであり，読書感想文の書き手である児童生徒を大切に考えていることを示しているが，問18では「一言か二言しか書きそえてやらない」が小・中学校とも過半数を占めているのは，ちぐはぐな点である。

問18で「批評や感想を書いてやる」教師が10パーセント程度しかないのに，**問19**の「表記上のミスの目立つ点をなおしてやる」教師が全体の半数近くを占めていることはちぐはぐである。現場の教師は多忙である事実は全然解決していないのに，一つ一つの読書感想文の表記ミスをなおしていたのでは，教師の負担が大きくなりすぎる。評価の重点は，ひとりひとりの子どもの思考が深まり，人間として成長していくことにあるのだから，表記ミスの指導は純然たる作文指導の機会に，全面的にまかせてしまうことはできないだろうか。そうすることによって，読書感想文の質的な向上を図りたいものである。このことは，**問20**で表記ミスを評価と分けて考える回答が圧倒的に多いこととも関連してくる。表記ミスをなおしてやらなくても，意識させるだけでよいと思う。

6　読書感想文をどう見るか

問21　昔話の「ももたろう」の読書感想文を小学校低学年の児童に書かせたら，「おにを いじめては いけない」という暴力否定の感想が出てきたとして，このような場合に，次のどれを重点的に指導しますか。

	小	中	計
ア　この鬼は悪いことをたくさんしてきたのだと説明してやる	1.9	1.8	1.9
イ　桃太郎は悪をこらしめる正義の味方なのだと説明してやる	7.8	5.4	6.5
ウ　何も指導しないで，そのままにしておく	7.8	6.3	7.0
エ　何も説明を加えないで，もっとていねいに読ませる	14.6	15.3	15.0
オ　類似した昔話を読ませて，もっと深く考えさせる	66.0	67.6	66.8
無答	1.9	3.6	2.8

問22　伝記の「ナイチンゲール」の読書感想文を小学校

中学年の児童に書かせたら，「ナイチンゲールは戦争で傷を受けた兵士の手あてをして，えらいといわれているけれど，戦争をやめさせるほうがもっとえらい。ナイチンゲールはばかだ。」という感想が出てきたとして，次のどれを重点的に指導しますか。

ア　この子の考えのするどさをほめてやる	2.9	2.8	2.8
イ　何も指導しないでそのままにしておく	1.9	2.8	2.4
ウ　何も説明をしないで，もっとていねいに読ませる	10.7	11.1	10.9
エ　戦争というものについて，もっと考えさせる	37.9	38.9	38.4
オ　類似した伝記を読ませて，もっと深く考えさせる	44.7	38.9	41.7
無答	1.9	5.5	3.8

問23　次の読書感想文は読書ノートに書かれたものですが，平均的にみて，何年生程度のレベルだとお考えですか。

(例1)『星の王子さま』サン・テクジュペリ著（童話)

私はこんな話は初めて読んだのでとても不思議だと思いました。どういう感じとはいえないが，何かミステリーの映画をじっくり見たあとの「あーおもしろかった」と思って，もう一回その話を考えなおすような感じでした。でもちょっと違って，だれかが来て知らないうちにその人がぱっと消えてしまった時の気持ちでした。今度ゆっくりと読みなおしてみたいと思います。

ア　小学三年生	1.0	2.8	1.9
イ　小学四年生	27.2	11.0	18.9
ウ　小学五年生	31.1	32.1	31.6
エ　小学六年生	27.2	26.6	26.9
オ　中学一年生	11.7	23.9	17.9
無答	1.8	3.6	2.8

問24　上の読書感想文について，次の考えのどれをとりますか。(学年をきめた上で)

ア　考えがすなおに出ていてよい	13.6	10.9	12.2
イ　おもしろさが具体的に書かれていてよい	2.9	3.6	3.3
ウ　あっさりしすぎていてものたりない	17.5	20.9	19.2
エ　読みなおさせて，しっかりしたものを書かせる	45.6	46.4	46.0
オ　ファンタジックな物語を重点的に読ませる	19.4	16.4	17.8
無答	1.0	1.8	1.5

問25　次の読書感想文は読書ノートに書かれたものですが，平均的にみて，何年生程度のレベルだとお考えですか。

(例2)　『影が重なる日』小松左京著　(SF小説)

この本は，短編（150ページ）にまとめてある。この本を読んで，とても恐怖感をおぼえた。今までの恐怖感とは，例えば，おばけ，オカルトなどの心理的内面上の信じがたいことだと，一応皆はうすうす感じていたであろう。しかし，この恐怖感とは，人間が何かを作って，その作った人が何も思っていないのに，そのために犠牲が出る。いわゆる機械的，人工的な恐しさであり，それをじっくりと感じた。こういう恐しさは，なかなかとれなく，自分が，その恐怖を起こした物の中の世界の次元に住んでいると思うと，なかなか忘れにくい。人間は進歩したが，進歩した影に，こういう“くぼみ，ひずみ”の中に起こる出来事は非常に後が恐しい。とにかく機械的な恐しさは“うそ”の恐しさとは違い，本当の恐しさではないだろうか。

ア　小学六年生	1.0	0	0.5
イ　中学一年生	8.7	1.8	5.1
ウ　中学二年生	30.1	36.0	33.2
エ　中学三年生	42.7	45.0	43.9
オ　高校一年生	15.5	15.3	15.4
無答	2.0	1.9	1.9

問26　次の読書感想文は読書感想文コンクールに入選し

たものですが，この読書感想文についてどうお考えですか。

（例3）毎日新聞社・全国学校図書館協議会共催の読書感想文コンクール（昭和49年度）で総理大臣賞を獲得した「原色日本蘚苔類図鑑を読んで」。（本文省略）

ア　苔の栽培の話としてはおもしろいが，共感はしない	1.0	2.8	1.9
イ　あまり優れた読書感想文だとは思わない	5.8	1.9	3.8
ウ　苔についての生活文として考えたほうがよい	19.2	27.8	23.6
エ　なかなかユニークな見方をしていておもしろい	42.3	33.3	37.7
オ　新しいタイプの読書感想文としてとくに優れている	29.8	31.5	30.6
無答	1.9	2.7	2.4

問21・問22・問24は，いずれも特異な考え方の読書感想文の例であるが，回答数の多いものは指導の観点の上で共通している。類似した童話や伝記を読ませることによって深く考えさせたり，その本をもう一度ていねいに読ませることはオーソドックスな方法であり，ぜひ実施したいものである。これらの場合に，読書感想文の書き手と教師とのあいだに一対一のコミュニケーションが必要であるし，じっと見守ってやる愛情がないと，中途半端な読書活動に終わってしまいがちである。

問23・問25は，一つの読書感想文をどの学年のレベルと判定するかという設問であるが，予想以上に回答は分散している。読書感想文の評価についていかに共通理解がないかということを示す一つの例になると思う。なお，この二つの読書感想文は同じ学級の生徒のものであるだけに，ひとりひとりの読書力に対応した指導が必要であることを痛感させられる。

問26は，紙面のつごうで読書感想文の本文は掲載しないが，総理大臣賞を獲得して昭和49年度の日本一になったものである。当然「新しいタイプの読書感想文としてとくに優れている」が大多数になっていいはずであるが，調査の結果では30パーセント程度にしかすぎない。どういう読書感想文をよしとするか意見が大きくわかれているわけである。優れた読書感想文だとはみない者も約30パーセントあることからみて，「優れた読書感想文とはどういうものか」という問題は，容易には共通理解を得られそうもない。

7　ま　と　め

1　アンケート調査作成のむずかしさ

この調査は，昭和49年度の科学教育研究助成費を文部省からもらってすすめている「読書感想文指導の研究」の一環であるが，限られた時間に，一個人が，アンケート項目を作成して調査を実施することのむずかしさを痛感した。

このような調査を実施するためには，読書感想文についての定義を前もってくだすべきかもしれないが，そうしてしまうと，回答者の考えるわくを限定してしまうことになるので，あえて定義をくださなかった。調査結果からもうかがえるように，雑多な考え方が雑居している現在において，この問題は今後の課題となる。

26の調査項目をきめ，それぞれについて選択肢を作る作業は簡単なものではなかった。個人的な研究や経験だけでなく，多くの方々の貴重な研究成果を参考にさせていただいたが満足できるものはできなかった。回答者から寄せられたことばの中に，「やや強制的な感じがして心苦しい。」「二つ以上の選択肢に○をつけたいという項目もありましたが，集計の都合もあろうかと思って一つにしぼりました。この種の調査のむずかしさの限界だとは思いますが。」などがあったことはそのとおりだし，責任をも感じている。

2　回答者のとまどい

現場の教師は子どもたちに読書感想文を書かせているからといって，だれもが読書感想文について深い考えをもっているわけではない。回答者のわくを限定したのもこのためであるが，回答者の中に「一種の踏み絵のような感じです。アンケートをみて，日頃の実践を恥ずかしく思いました。」という強烈なことばがあった。私はけ

っしてそのような意図はなかったが，この調査がそのような役割をはたした事実は認めなくてはなるまい。

「読書感想文の指導を読むことを中心に考えるか，書き方の指導として考えるかで観点が違う。」という基本的な問題を提起された人も何人かいる。私は，二つの面をはっきりと認め，指導のポイントは読むことの指導におく立場をとっている。

「読書感想文の指導が読書指導の中で大きな位置を占めるものとは考えない。読書を生活化するためにはむしろ障害となる恐れさえある。」という意見も出ている。読書指導の全体像の中で読書感想文がどの程度の位置を占めるかということは大きな問題である。

3 児童生徒の受けとめ方

このアンケート調査とは別に，私は中学三年生を対象とした読書歴の調査をすすめつつあるが，その中に「小学校時代の読書の記録について」という項目がある。

	男	女
1 読んだ本については，自発的に読書日記や読書記録などを書いた	4.5	8.9
2 印象の強かった本についてだけ感じたことや考えたことをくわしく書いていた	5.4	8.4
3 印象の強かった本についてだけかんたんな読書記録を書いた	10.8	17.1
4 先生から読書感想の課題を出されたときだけいっしょうけんめいに書いていた	26.6	34.6
5 先生から読書感想の課題を出されたときだけいやいや書いた	31.9	19.1
6 読書記録や読書感想などはほとんど書いたことがなかった	20.5	11.6
無答	0.3	0.3

この調査は，日本中から4416人の中学生を選んで調査したものだけに信頼度も高いと思う。男女差がはっきり出ているために，同一条件におかれても受けとり方の違いがあることがわかるが，今回の調査の教師側の考え方と比較すると，大きな違いがあることがわかる。

4 具体的な指導法の確立

今回の調査を集計していて，もっとも強く感じたことは，調査に協力してくださった教師集団の意識の高さと子どもたちの読書感想文のレベルの低さとのギャップの大きさである。このギャップを小さくするためには，具体的な指導法を確立していくしか方法はない。読書感想文の指導には多くの問題点があることが，この調査によって浮き彫りにすることができたかと思う。

＜注1＞「中学生の読書歴」日本教育科学研究所研究紀要として昭和51年4月発行予定。各地の中学三年生4416名を対象として，読書環境・読書歴・読書観などを33の項目にわたって調査したもの。

SUMMARY

〔**Note From the Editors.**〕

In this summary, the term "book report" is used for the Japanese term "dokusho kanso-bun" which can be literally translated as "reading impression composition." The Editors would like the readers to be aware that a "dokusho kanso-bun" might be somewhat different from a "book report" written by an English-speaking child. Japanese children are encouraged to write their own views on the relation between the theme of the book just read and their past and future life in addition to writing a summary of the book and what they felt or thought about the book.

---

210 teachers of Japanese, 103 from elementary and 107 from junior high schools, answered a questionnaire about book reports.

41 % of the teachers (33 % of El, 49 % of JH) reported that they have their students write a book

report 3 or 4 times a year. More than half of the teachers (56% of El, 58% of JH) answered that a book report contest is held in their school each year. Although it seems that the instruction of book reports is used widely the teachers complained that they have instructional difficulties because: (1) their students do not have sufficient interest in writing book reports, (54% of El and 46 % of JH), and (2) teachers do not have time to read book reports (23 % of El and 30 % of JH). The teachers evaluated book reports negatively when the reports were simple expressions of what the student felt (51% of El and 45% of JH), or of what the student understood (24 % of El and 21 % of JH). The teachers answered that they rarely read an excellent book report in which a student, motivated by the book, wrote his or her intention to improve behavior and thinking.

About three-fourths of the teachers stated that writing a book report would cause the reading to be done more deeply (74 % of El and 75 % of JH). When there was a big gap between a student's and a teacher's opinion of a particular book, the teacher (52% of El and 53% of JH) usually told the students their thinking on the book. When a child's report differed considerably from the main idea of a story, the Japanese teachers ususally gave the child another book with the same theme and encouraged the child to think more deeply.

All the teachers were asked to read two book reports and to estimate the grade of each student writer. Their responses were so widely distributed that it was concluded that it is very difficult to estimate the grade (or age) of the writer.

The author concluded that despite the high level of teachers' knowledge and enthusiasm, the quality of book reports written by Japanese children is not correspondingly high.

人物の深さの係数について

——物語絵本の研究のために——*

立正女子大学
阪本一郎**

はしがき

この提案は，私の現に進めている幼児向物語絵本の研究の一部分をなすものである。

同じ研究の一環として，前に『絵本の語深係数の一研究』を発表した(1)。それは，ユングブ（Yngve, V. H.）の発想に(2)もとずいて，文の長さを語深係数（word-depth）で計上することを試みたものである。日本語の文は英語の文とその構造が違うので，彼の原理を日本語の文に適用するとどうなるかをためしてみたのである。それを発表した後，いくらかの修正をして，語深係数は，ただ文の長さを文節数で計上するよりも効果的であることを確めた(3)。

「人物の深さの係数」（character-depth）は，彼の原理を登場人物に当てはめたもので，略して「人深係数」とよぶことにする。

1. 人深係数の意義

人物の深さとは，登場人物の名前や種類などを記憶していなければならない間隔を意味する。ある人物は頻繁に登場しているので，その名前や種類など，その個性は容易に記憶するが，ある人物はめったに登場してこないので，その個性を記憶していて，同一視すること（誰が誰かを確認すること）が困難になる。

そこで，記憶の間隔を1話根ごとに数える。

ここで「話根」というのは，物語を構成している最小の単位であって，1文もしくはそれ以上の文から成るものである。1編の物語は，原則として，いくつかの段落（paragraph）に分かれ，また各段落は，いくつかの話根に分かれる(4)。だが，もうこれ以上分けると，同じ場面の1カットになってしまうというものである。

この際，同じ場面にいたと考えられても，名前や種類が話根の中に明記されていないもの，および描画の中に描かれていないものは，除外する。それは，物語の展開の過程に重要な役割を持っていないと見なされるからである。また，最後の話根の中で，初めて登場する人物は，人物数にはかぞえないことにした。それは，間接記憶で保存する必要がなく，直接記憶で同一視することができるからである。

そこで各話根において登場している人物の名前あるいは種類を調べる。……〔1〕

次いで，その人物が登場してからあと，最後までの話根の中で，その人物が登場していない話根の数をかぞえる。これが記憶を要する延べ人物数である……〔2〕

次いで，延べ記憶人物数を登場人物数で除した商を求める。これが人深係数で，小数以下2位までを求める。……〔3〕

なお，もっとも多く登場する人物の話根数と総話根数との比を％で出し

最多登場人物話根数÷総話根数×100

---

* Story roots and character-depth for the assessment of story-picture books.

** SAKAMOTO, Ichiro(Rissho Women's University)

＝主役の集中度（%）

を計算すると，この物語の主役が，彼の言動に触れている描写の集中度がわかる。これをも参考にすることにした。

ただし，主役が交代する物語の絵本がある。『おむすび　ころりん』がその例である。すなわち話根の前半は動物報恩の話で，後半は，別の欲深爺がそのまねをして失敗する話。この種の物語は，『舌切雀』，『花咲爺』，『瘤取爺』などの民話には少くない。したがって，こういう作品では，第二段主役には，別人であっても，主役の交代を認めることにした。

2. 『桃太郎』における実測

私は，松居直文・赤羽末吉画『ももたろう』福音館，1965年刊（本文38ページ）で，人深係数を測ってみた。

この絵本は，爺と婆との生活を描き，桃太郎の出生するまでの段落と，烏が鬼の情報を伝えて，鬼が島征伐の準備する段落，桃太郎が遠征の途中，犬・猿・雉の協力者を得る段落，鬼が島で鬼が降参をする段落，そして桃太郎が爺と婆の所へ帰る段落と，5個の段落に分かれている。

ところが，最初の段落は，爺と婆との生活をえがく話根，婆が流れてきた桃を拾う話根，爺と婆とが桃を切ろうとすると桃の中から赤ん坊が生まれる話根，そして桃太郎と名付けられ，生育する話根と，4個の話根に分けられるであろう。

このように分けていくと，『桃太郎』の話根数は次のようになる。

(1) 爺と婆との生活。（登場人物　爺・婆）　文数 1
(2) 婆が流れてきた桃を拾う。（婆・桃）　7
(3) 爺婆が桃の中から赤ん坊を得る。（爺・婆・桃）　4
(4) 桃太郎と名付けられ，生育する。（爺・婆・桃太郎）　9
(5) 烏が鬼の非行の情報を伝える。（爺・婆・桃太郎・烏・鬼ども・姫）　4
(6) 爺婆が鬼退治の準備をする。（爺・婆・桃太郎・鬼ども）　6
(7) 桃太郎が犬を協力者とする。（桃太郎・犬・鬼ども）　9
(8) 桃太郎が猿を協力者とする。（桃太郎・犬・猿・鬼ども）　8
(9) 桃太郎が雉を協力者とする。（桃太郎・犬・猿・雉・鬼ども）　9
(10) 桃太郎が鬼が島で協力者とともに鬼と戦う。（桃太郎・犬・猿・雉・鬼ども）　9
(11) 鬼の大将が桃太郎に降参する。（桃太郎・犬・猿・雉・鬼ども・鬼大将・姫）　11
(12) 桃太郎が爺婆の所に帰り，平和に暮す。（桃太郎・姫・爺・婆・犬・猿・雉）　4

総話根数　12　　通算文数　82　　平均文数　6.8

これを見ると，全体で82文となるが，話根数で除すると，82÷12＝6.8となり，平均して1話根は6.8文で成っている。

次いで登場人物の数をかぞえる。

桃太郎(11)，鬼ども(8)，婆(7)，爺(6)，犬(6)，猿(5)，雉(4)，姫(3)，鬼の大将(1)，烏(1)の10名である。そして10名の各話根における登場数は，それぞれの括弧の中に注記した通りである。

この際，桃を拾って帰るのは，桃太郎の伏線となっていると解したので，「桃」を数に入れた。また「鬼」は複数で登場しているが，その数がはっきりしないし，個性を区別して描写していないから，「鬼ども」として通算した。

かようにして，話根の中にもっとも多く登場するものは「桃太郎」の11回である。この物語の話根数12のうち，桃太郎の言動について，11話根は，それに触れているのである。そこで主役の集中度を出すと，11÷12×100＝92となり，この絵本は桃太郎の言動について，総話根の92%を当てて描写していることが知られる。

また〔2〕によって，延べ記憶人物数を出すと，桃太郎（11—11），鬼ども（8—8），婆（12—7），爺（12—6），

犬 (6—6), 猿 (5—5), 雉 (4—4), 姫 (7—3), 鬼の大将 (2—1), 烏 (8—1) の合計23名となる。そこで〔3〕によって人深係数を求めると, 23+10=2.30となる。

このようにして, 主役への集中度92%と, 人深係数2.30との二つによって, 相対的に, 人物の個性のわかりやすさを見ようとすることにした。

3. 『101匹わんちゃん大行進』における実測

上記の絵本と比較するために, もうすこし登場人物の多い絵本を選んでみた。ディズニー作画・槇本ナナ子訳『101匹わんちゃん大行進』講談社, 昭和45年刊 (本文36ページ) について見よう。

話根は, 次のようである。

(1) ポンゴという犬の飼主ロジャーズと, パーデタの飼主アニタが結婚して, ダルマシアン犬どうしも夫婦になる。(登場人物 ポンゴ・パーデタ・ロジャーズ・アニタ) 文数 21

(2) 犬の夫婦は15匹の子を生む。(ポンゴ・パーデタ・ロジャーズ・アニタ・子犬・お手伝) 12

(3) 変な女クルエラが子犬を買いにくるが, アニタは売られない。(クルエラ・アニタ・子犬) 3

(4) 悪者二人が子犬を盗む。(悪者・子犬・お手伝) 5

(5) ロジャーズは事件を警察に届け, 新聞にも記事が出る。(ロジャーズ・クルエラ) 8

(6) ポンゴは犬の仲間に訴える。聞いたコロネルとチブスは悪者屋敷へ捜しに出かける。(ポンゴ・パーデタ・コロネル・チブス) 13

(7) 悪者屋敷でクルエラは手下に明日は子犬を殺して毛皮を取ると言う。(クルエラ・チブス・悪者) 11

(8) ついに99匹の子犬を発見し, ポンゴたちは悪者たちに挑戦する。(子犬・ポンゴ・パーデタ・コロネラ・悪者) 21

(9) そのまにチブスは子犬たちを脱出させ, 馬小屋にかくまう。悪者が追う。(子犬・チブス・悪者・馬) 13

(10) コリー犬は子犬たちを牛小屋に移し, 牛乳をふるまってもらう。(子犬・コリー・牛) 10

(11) 朝になるとロンドンへ行くトラックがあるとラブラドル犬に教えられる。(ポンゴ・悪者・クルエラ・子犬・ラブラドル犬) 14

(12) 子犬たちをトラックに乗せる。追跡する悪者たちの乗った車は谷に落ちる。(子犬・ポンゴ・パーデタ・クルエラ・悪者) 19

(13) 101匹の小犬たちは, 無事にロンドンのロジャーズの家に着く。(子犬・ロジャーズ・アニタ・お手伝) 10

(14) 子犬たちはロジーズ夫婦に飼われることになる。(子犬・ロジャーズ・アニタ) 7

話根数 14　　通算文数 167　　平均文数 11.9

さて前例に準じて登場人物の数をかぞえる。

登場した話根数の多い順に並べると, 子犬たち(11), 悪者たち(7), ポンゴ(6), パーデタ(5), ロジャーズ(5), アニタ(5), クルエラ(5), お手伝さん(4), 猫のチブス(3), コロネル(2), 牛(1), 馬(1), コリー犬(1), ラブラドル犬(1)の14名である。ほかにダルマシアンという名も出るがそれはポンゴとパーデタと子犬たち, およびほかの子犬たち101匹の犬の種類をさしている。そう言えば, コリー犬とラブラドル犬も犬の種類らしいが, 犬のことは精しくない読者には, それがここにあげた他の犬をよんでいるのか判然としない。ダルマシアンは, 全身に斑点があるので絵を見れば判る。

そこで〔2〕によって記憶人物数を出すと, お手伝(10), ロジャーズ(9), アニタ(9), パーデタ(8), ポンゴ(7), クルエル(7), コロネル(7), チブス(6), 悪者(5), 馬(5), コリー(4), 牛(4), 子犬(3), ラブラドル犬(3)の合計87名となる。したがって〔3〕によって人深係数は87÷14=6.21となる。また主役への集中度を計算するとと, 11÷14×100=79%なる。

この絵本は, ディズニーの原作の同名の映画を, 絵本向きにまとめ直したもので, したがって登場人物が多く, すべて外国名で, ナレーションも省略されていて,

説明不足の個所が少くない。映画を視聴した者には，登場人物の性格が描き分けられているのかもしれないが，この絵本からはいる者には雑ぱくな感じがする。とても「101匹わんちゃん大行進」の見事さは感じられないであろう。

4. 『雀の魔法』における実測

上記の絵本と比較するために，もう1冊，ニクレビチョーバ作・内田莉莎子訳・山中冬児画『雀の魔法』偕成社，昭和42年刊（本文31ページ）を取りあげる。

この絵本の話根は次のようになっている。

(1) 春が来たのでハムスターは目をさまし，小麦を食べる。（登場人物　ハムスター）　文数 4

(2) 山ウズラが来て，今日の誕生日のパーテイにケーキを焼くから，小麦を貸してくれと頼む。ハムスターはことわる。（ハムスター・山ウズラ）　17

(3) 山ウズラの所へ野鼠が来て，手紙を書きたいのだが羽を一本くれという。山ウズラはことわる。（山ウズラ・野鼠）　8

(4) 野鼠は子兎がわなにかかっている所を通りかかる。しかし野鼠は助けてやらない。（野鼠・子兎）　8

(5) ハムスターは兎の所へ行って，ふかふかの毛の靴を作ってくれと頼む。兎は子兎が行方不明なので捜さねばならないからと，断る。（ハムスター・兎）　15

(6) 山ウズラの所に雀がとんできて，がっかりしている理由を聞く。（山ウズラ・雀）　4

(7) 雀が野鼠の所に来て，がっかりしている理由を聞く。（雀・野鼠）　6

(8) 雀はまたわなにかかっている子兎の所へ来て，野鼠が助けてくれないことを知る。（雀・子兎）　5

(9) 雀はハムスターの所に来て，がっかりしている理由を聞く。雀は魔法をかける。（雀・ハムスター）　14

(10) 雀はハムスターの出した小麦を野鼠の所へ運ぶ。山ウズラは喜んで羽を野鼠に与える。（雀・ハムスター・山ウズラ・野鼠）　3

(11) 野鼠は子兎のわなをかみ切って助けてやる。（野鼠・子兎）　4

(12) 子兎が帰ってきたので，兎はハムスターに靴を作って届ける。（兎・子兎・ハムスター）　1

(13) 山ウズラは小麦で誕生日のケーキを焼き，みんなにご馳走をする。ハムスターは山ウズラに，小麦は私の贈物だという。（山ウズラ・ハムスター・野鼠・兎・雀）　6

総話根数 13　　通算文数 111　　平均文数 8.5

前例にならって登場人物の数をかぞえると，ハムスター，雀，野鼠，山ウズラ，子兎，兎の6名である。

そこで〔2〕によって記憶人物数をかぞえると，山ウズラ(7)，ハムスター(6)，兎(6)，野鼠(5)，子兎(5)，雀(2)の合計31名となり，〔3〕によって人深係数を出すと，31÷6＝5.17となる。

また主役への集中度は，6÷13×100＝46％となる。

この絵本は『雀の魔法』と題しているが，最多登場人物はハムスターである。次位の登場人物には雀と野鼠とが並び，1話根下がって山ウズラ，また1話根下がって子兎と続くというぐあいに傾斜の度が少い。言い換えると主役への集中度が低いわけである。

このハムスターには日本の幼児には縁がうすく，最初に紹介の注がつけてある。「ハムスター……鼠の一種で，地面に穴を掘って住んでいる。普通の鼠より大きく，頬に食物を入れる袋がある。」しかし絵には袋があるようには見えない。それとともに，登場人物は類似の動物が多い。ハムスターと野鼠，雀と山ウズラ，子兎と親兎というぐあい。そこでこれらの類似の動物が，絵によって識別されるような配慮がほしいのだが，みんな擬人化されていて，まぎらわしい。

また話根の(2)から(5)までは，無理難題とは思えない4人の申し出を聞いてやらない意地わる話が続き，(6)から(9)までは，その事を根に持っての愚痴話が続く。13話根のうちの8話根までは，執念のダーク・サイドの話である。そこで雀は，この場面を転換しようとしてハムスタ

ーに魔法をかけるのだが，その経緯は，ポーランドの女流作家らしくて陰気である。

さらに(3)の話根で，野鳥が山ウズラに，手紙を書きたいから羽を一本くれというのは，羽をペンに仕立てることだと大人には判るが，日本の幼児にはいささか無理である。

5. 『空の救助隊』における実測

もう一例を，主役への集中度の高い絵本として松居直作，寺島竜一絵『空の救助隊』福音館，1967刊（本文25ページ）を取りあげる。

この絵本の話根は，次のようになっている。

(1) 飛行機は救助隊の基地である。(登場人物　飛行機)　文数　4

(2) ダムの工事場でたくさんのけが人が出たから，血液がほしいと無電連絡がある。(飛行機)　13

(3) 血液が運ばれて来た。小型機に積んで出発する。(飛行機)　10

(4) 雲の上に出たが，目的地は見えない。(飛行機)　13

(5) 町に雪が降っている。飛行機は低空を飛びつづける。(飛行機)　24

(6) ダムを発見し，血液投下の一回目は失敗する。(飛行機・ダムの人々)　14

(7) 谷に戻り，血液を投下する。成功。(飛行機・ダムの人々)　17

(8) 飛行機は基地に戻る。(飛行機)　7

総話根　8　　通算文数　102　　平均文数　12.8

登場人物の数は，飛行機(8)，ダムの人々(2)の２名だけである。この飛行機には二人の飛行士が搭乗しており，その絵が示されているが，この二人は個性的な描写を伴っていないから，「飛行機」の中にふくまれていると見てよい。

そこで，〔2〕によって記憶人物数は，飛行機（0）と，ダムの人々（1）の合計１名だから，〔3〕による人深係数は1÷2=0.50となる。

また主役への集中度は，8÷8×100=100%となる。

この絵本は，救助隊の一機が使命を帯びて基地を飛び立ち，目的を達して帰投するまでの冒険を描いたものである。

6. 絵本の実態

私は上記の４冊を含めて，50冊の絵本を無作意に抽出して，人深係数と主役への集中度を測定してみた。(データ省略)

まず話根数を見ると，最も多い絵本は14話根の『101匹わんちゃん大行進』で，あとは13話根の『雀の魔法』ほか１冊。最も少いのは１話根の絵本が１冊，５話根の絵本が３冊。50冊の平均が8.6話根（標準偏差2.25）であった。

表１　50冊の絵本の話根数の実態

最も多い	3 冊	(101匹と雀を含む)
やや多い	13	(桃太郎を含む)
普通	16	(救助隊を含む)
やや少い	14	
最も少い	4	

そこで平均を中心として，１標準偏差ごとに区切ると，表１のように正常曲線に近く分配されていることが知られた。

この話根の切り方には，多少の主観が伴なう。しかし描画にはこだわらず，事件の内容に一つの決着がつき，また場面の転換に注意すれば，絵本の場合には，かなり客観性が保てると思う。誰にやらせてみても，全体として２話根以上の個人差は出ないであろう。

次に，１話根の中に文がどれだけ用いられるかを平均すると，50冊の平均が10.2文（標準偏差5.29文）となった。これはかなり偏差が大きく，多くの文を用いて叙述している絵本もあれば，１～２文だけで１話根の叙述が終わっている絵本もある。

そこで前のように，平均を中心として１標準偏差ごとに区切ると，表２のように，ここでも正常分配曲線にな

表2　50冊の絵本の話根の平均文数の実態

最も多い	2冊	
やや多い	5	
普通	31	(救助隊，雀，101匹)
やや少い	10	(桃太郎)
最も少い	2	

るが，普通の（7.8文から13.1文の平均に近い）文数に集中していることが知られた。

この傾向は，読み手の年齢が進むにつれて次第に話根の文数が多くなるのではないかと思われる。ここで最も文数が少い絵本を見ると，文はただ絵が何であるかを説明しているにとどまり，最も文数が多い絵本は，描写がこまやかになっている。

次に登場人物の数を計上した。50冊の中で最も多くの人物が登場している絵本は15名，最も少ない絵本は2名で，平均して6.64名（標準偏差2.08名）であった。表3のように，やや少ない4～5名を登場させている絵本が最も多かった。

表3　50冊の絵本の登場人物数の実態

最も多い（10以上）	9冊	(桃太郎，101匹)
やや多い（8～9名）	9	
普通（6～7名）	11	(雀)
やや少い（4～5名）	13	
最も少い（2～3名）	8	(救助隊)

さて次に，人深係数を算出してみた。これは，数値が大きいほど深く，したがって間接記憶に留める負担が大きいのである。50冊の平均は2.41（標準偏差1.42）であった。

表4　50冊の絵本の人深係数の実態

最も深い	4冊	(101匹，雀)
やや深い	13	
普通	15	(桃太郎)
やや浅い	15	(救助隊)
最も浅い	3	

そこで前のように平均値を中心にして，1標準偏差の幅で段階を付けると，表4のようになった。

ここでは，人物を記憶する負担が少ない絵本が比較的多くなっている。この傾向はもっともなことと肯んじられよう。

最後に，主役への集中度を出してみた。『空の救助隊』など40冊は100%であった。平均して96.6%（標準偏差8.93%）となる。

ここでは，一般の常識にしたがい，4捨5入して100%になれば「集中している」，同じく90%になれば「やや集中している」，同じく80%になれば「普通」，同じく70%になれば「やや集中せず」，そして60%以下になれば「集中せず」と評価することにした。すると表5のようになった。

表5　50冊の絵本の主役への集中度の実態

最も高い	40冊	(救助隊)
やや高い	7	(桃太郎)
普通	2	(101匹)
やや低い	0	
最も低い	1	(雀)

表6　4冊の絵本の比較

タイトル	話根数	段階	平均文数	段階	人物数	段階	人深係数	段階	集中度	段階
桃太郎	12	やや多い	6.8	やや少い	10	最も多い	2.30	普通	92	やや高い
101匹大行進	14	最も多い	11.9	普通	14	最も多い	6.21	最も深い	79	普通
雀の魔法	13	最も多い	8.5	普通	6	普通	5.17	最も深い	46	最も低い
空の救助隊	8	普通	12.8	普通	2	最も少い	0.50	やや浅い	100	最も高い

7. 上記4冊の絵本の比較考察

さて，ここにとりあげた4冊の絵本について比較考察を試みる。

データは表6のようである。

これを見ると，『桃太郎』は，話根数がやや多いほうであるが，平均文数はやや少いと評価されている。これはおもに場面の転換が多いけれども，その描写は比較的簡潔に行われていることを示すのである。だが登場人物の数は10名で最多の段階であり，人深係数は，普通となっている。やはり簡潔な描写で要領よくまとめてあるせいであろう。主役への集中度はやや高いと評価されている。

この作品の特色は，鳥を登場させて，鬼どもの非行をあばき，それを聞いた桃太郎に鬼が島へ行く決意をさせるというふうに合理化していることと，連れて帰った姫と結婚して幸せに暮らすという結末をつけていることである。この2名の端役を登場させたために，決意と幸福とがいっそう強く印象付けられたのだとも解される。まずは無難な作品と言えよう。

次の『101匹わんちゃん大行進』は，話根数は最多で，平均文数は普通である。ということは，この絵本も場面の転換が多く，その描写は比較的簡潔になされていることを示している。だが登場人物の数は最多で，14名であり，人深係数は最深の段階になっている。

この作品は前にも書いたように映画の筋をちぢめたもので，かなりの無理が目立つ。絵の中に誰が誰かを示す個有名詞が刷りこんであったりする。主役への集中度も普通であるが，人物がまぎらわしいという点では，絵本としては失格の作品とせざるをえない。

次の『雀の魔法』は，話根数は最多で，平均文数は普通であるが，やや『101匹の大行進』よりも下廻る作品である。ただし登場人物は6名で，普通の段階だが，人深係数は最深の段階である。前に書いたような理由でまぎらわしく，主役への集中度は46％という最低の段階である。これも絵本としては失格の作品とせざるをえない。

次の『空の救助隊』は，話根数・平均文数ともに普通の段階の作品である。だが登場人物は最少で，また人深係数もやや深い段階，すなわち人物を混同するおそれが全然ない。主役への集中度も100％で，最高である。絵本としては傑出した作品の一つである。

あとがき

この研究は，幼児向物語絵本の実態から，人物の深さの係数と主役への集中度を評価することを提案したものである。したがって私が無作為に抽出した絵本50冊が，妥当を欠いていたとすれば，その解釈が異ってあらわれるかもしれない。いまは仮りにここに選んだ絵本が妥当であるとして，結論を出した。

また絵本は(1)主題，(2)構想，(3)性格描写，(4)記述などの文章の面と，(5)描画・印刷・造本などの絵等の面から評価されるべきであると考えている。これは(3)の性格描写の一部分であることを断っておく。

参考文献

(1) 阪本一郎『絵本の語深係数の一研究』(保育論叢　第8号) 立正女子大学短大部児童科，1973。

(2) Yngve, V. H.; A Model and Hypothesis for Language Structure. (Proceedings of the American Philosophical Association), 1960

(3) 阪本一郎『絵本の研究』(未刊)

(4) 阪本一郎『児童読みものの研究――「少年ケニヤ」についての話根分析の試み』(読書科学，第1巻　第1号) 日本読書学会，1956.

SUMMARY

The procedure of "word depth" by V. H. Yngve was applied to assess the relative frequency of appearance of characters in a story. Character-depth was calculated through the following procedure.

(1) Divide the story into several "story-roots" which are the smallest units (situations) of the story. Usually, a story can be divided into several paragraphs which consist of several "story-roots"

(2) Check which characters appear in each "story-root".

(3) Count the "story-roots" in which each character does not appear after its first appearance in the story.

(4) Divide the total of (3) by the number of characters.

The quotient of (4) was defined as the "character-depth" of the story. Beside the "character-depth", the ratio of the appearence of the main character is calculated by dividing the number of "story-roots" in which the main character appears by the total number of "story-roots" in the story. The quotient is multiplied by 100 for convenience. 50 stories in picture books for children were analyzed for "character-depth."

The average number of "story-roots" in a story was 8.6 (SD=2.25) and the average number of sentences in r "story-root" was 10.2 (SD=5.29). The average numbea of characters in a story was 6.6 (SD=2.08). The average character-depth of a story was 2.4 (SD=1.42), and the average ratio of the main character's appearance was 96.6 (SD=8.93). Based on the averages and SDs, a table of these assessments was compiled for fifty picture-book stories.

資　料

「山本晴雄：読書と人間形成」について*

＜1975年7月公開研究会報告＞

先ず，発表者山本は，人間形成とは，行動を変容する学習の一種という観点から，そこには，「条件反応，洞察，同一化」という学習理論が適用できる，という。「彼には負けられない。」といったような「競争」の原理も，人間形成の契機と考えてよい，という。

非行少年が立ち直るという，人間改造においても，これらの学習理論，原理が，複雑に絡み合ってはたらく。非行少年にとっては，家裁から呼び出しを受けたり，拘置されること自体が，すでに大きなショックを与える。いいかえれば，それは非行という反応に対してマイナスの強化になるので，条件反射理論でいう反応を消去させる要因となる。その上に，非行少年には，カウンセリングや読書療法等が施こされるので，一般的にいえば，これらが複雑に絡み合って，人間改造がなされる。

これは，山本が前に読書学会大会で報告した事例だがとことわって，スピード・マニアであり，かつすぐ暴力をふるう非行少年の事例を，ここであげた。彼は「補導委託」という中間処分になり，建築屋に住み込となった。前記の意味での条件反応は効を奏せず，住み込みになっても，運転するトラックには，同僚が一緒に乗っていられないほど，スピードを出すことを止めなかった。ところが，交通遺児の作文集「天国にいるお父さま」から，毎日三篇ずつ選び，これを与えて読ませ，感想文を書かせるという，読書療法を試みた。彼は感想文の中で，「クラスの中で一人だけお父さんがいない。（交通事故で父は死亡）その気持ちは，その立場になってみないとわからない。本当にかわいそうな子だ。……」というような共感（empathy）を表明し始めた。彼の行動観察によると，この作文集を読んだ後で，すっかり考え込み，ショックを強く受けたように，見受けられた。こうして，交通遺児の作文集に基ずく読書療法により，彼は三日目から運転のスピードを落とすようになり，「運転は止めたい。」，と申し出るようにまでなった，という。

一般に非行少年は，享楽的で意志薄弱な面があると共に，自己中心性が強い。非行は，この自己中心性から来るところが多いのであって，これを変換させるためには，「共感性を刺激すること」が，有効であり，上記のスピード・マニアの少年は，読書療法を通してこれが行なわれた，と山本は考える。

＜事例2＞として，山本は拘置中に逃亡をはかり，同僚に暴力をふるう非行少年の読書療法と内観療法併用の事例を述べた。先ず読書療法としては，「母」という文集から20篇選び，前記と同様な読書療法を行なった。これが，彼のしいたげられた多くの母への共感を刺激した。さらに，自分の母の愛情を思い出させると共に，彼故に母が苦しんでいることに気付かせる契機となった。グリュックの有名な非行少年の調査は，累犯という程度の重い非行少年の調査であるが，そういう非行少年でもなおかつ，60％は「母は自分に愛情がある。」と答えており，愛情の欲求不満が，非行の原因とは一概にはいえない。彼らは，母の愛情を，その自己中心性の故に気付かないところに，むしろ原因を求めるべきだ，と山本はいう。

ところで，事例2の暴力少年には，他方では内観療法として，先ず幼児期，低学年期と年代を区切り，「今ま

---

* On "Reading and Character Formation" by Haruo Yamamoto.

で誰にどんな世話になったか」，回想させた。彼がつぎつぎに連鎖的に世話になったことを思い起こした後で，つぎに，「それに対して，どうお返しをしたらよいか。」，考えさせた。このことも，とかく不平・不満ばかりが眼につく彼の自己中心性を転換させる契機となり，暴力をふるわなくなり，まじめに仕事をやるようになった，という。

内観療法は，意識から忘れられた過去の事実を意識させることにより，自己洞察を成立させる点は，精神分析学と似ている。しかし，世話になった過去の事実を意識させる点が，傷あとを意識させる精神分析学と異なる。また，同じ内観療法でも，人により強調点の差がみられる。たとえば山本は，世話になった過去の事実を回想意識させた後で，どうこれに報いるべきか考えさせれば十分で，それによって自己洞察が成立すると考えるが，吉本伊信は回想の後で，大いに非行を責めるべきだと強調する。この点について山本は，婦女暴行少年の事例にも触れた。この少年に対しては，彼のかわいがっている妹と，妹をかわいがる母の行動とを，つぎつぎに回想させた。つぎに，彼が暴行を犯した少女とその母親の愛情との関係を，考えさせ，これにより，非行から立ち直らせることができた，という。

以上は，大雑把な山本の研究報告のあらましである。平沢薫司会のもとに，引き続き行なわれた質疑・討論の中から・つぎに，二・三あげてみよう。

＜質疑＞自己中心性を特性とする非行少年に対して「共感――自己洞察」という治療過程の有効性は，十分うなずける。他方，彼らの持つ意志薄弱という特性に対しては，はっきりした自己の目標意識に欠けることと，その目標を達する方法・過程がわからないところに原因が考えられる。はっきりした目標意識・方法を持たせることにより，成功した事例はないか。

＜応答＞ある。19才で処女を奪われ，「どうせわたしは紙屑みたいなものだから」と，ふてくされていた少女の事例だ。同様な目に合い，週刊紙にまで報導されながらも，じっと耐え，幸福な花嫁の座を勝ち採った藤本さぶみさんの例を話し，またそのお父さまのすぐれた態度を話した。これが契機となり，「自分にも，まだ将来がある」と，彼女は立ち直った。なお，非行から立ち直る原因の第2位に「恋愛と結婚」が統計学的にあげられていることが注目される。

＜質疑＞非行から立ち直らせるために，彼らに道義的認識や価値観を培うことの効果はいかに。

＜応答＞中国（中共）の洗脳は，正に価値観改造の方法論と考えてよかろう。しかし，自由主義社会という文化形態のもとで，非行少年にその方法がそのまま通用するかどうかは，慎重な考慮の余地がある。また，非行少年の場合，その（人格的）特性からして，共感という感情面が大切なので，善悪の認知的側面は，普通の少年にとくに劣るわけではないように思われる。（資料により詳しく説明）

＜質議＞児童作文による読書療法の有効性はよくわかったが，文学作品――例えば「杜子春」――のようなものはどうか。

＜応答＞児童作文を先ずとりあげたのは，非行少年の母や身近かな体験に結びつき，したがって共感性を刺激し易いと考えたからだ。おっしゃるように，文学作品も，その点さえ彼らの情況に合えば，すぐれた文学作品は大いに有効と思うが，まだ手をつけていない。

＜質疑＞事例1のスピードマニアの場合，交通事故の現場を見せるようなやり方はどうか。それが有効とすれば，治療は唯一つとはいえない。

＜応答＞優良運転士の調査で，「交通事故の現場をみた。友人がやられたので真重になった。結婚して子どもができたので慎重になった。」等を，その原因として多くあげている。治療は唯一つの方法に個定されたものではない。読書療法の他にビデオ療法なるものも，将来有望と考える。（文責・岡本奎六）

会　　報

公開研究会（1月18日）

午後2時より東京教育大学E館156号室で開催。講師黒崎宏氏（成城大学）司会井上尚美会員（東京学芸大学）。主題「言語と読書の生態学」

常任理事会（2月25日）

出席　倉沢会長　望月副会長　滑川　福沢　増田　室伏各常任理事。

欠席　なし

(1)　読書科学刊行の件

第18巻3号（通巻69号，昭和49年12月30日付）はようやく原稿が揃い，英文サマリーをつける作業に入った。同巻4号（70号）は原稿が不足している。以上のように室伏編集委員長から報告があった。

(2)　学術刊行物刊行助成金申請の件

上記のような事情で12月発行の号が遅れたため，今年は申請をすることができなかった。以上の通り阪本事務局長から報告された。

(3)　ニュースレター発行の件

版型，紙質などのこまかい点について事務局から資料の提出があり，審議の結果，クリーム色上厚紙，B5版9ポ横組2版で製作することにきまった。ニュースレターの題については倉沢会長が次回常任理事会に案を提出すること。第1号の発行は昭和50年4月1日付を目標とする。実際の製作は阪本事務局長が行なう。以上のように決定した。

(4)　第19回研究大会の件

期日を昭和50年8月1日（金）2日（土）の2日間，会場を私学会館としたい旨阪本事務局長から提案があり，これを承認した。

次に主題について討議され，「生涯教育と読書」を今回の主題とすることがきまった。

(5)　IRA関係の件

(イ)　読書科学編集委員ドナルド・レトン（ハワイ大学）と，IRA事務局のロナルド・ミッチェルの両博士がちょうど同じ時期に来日したので，1月10日夜，茗渓会館に会長・副会長・常任理理・編集委員が集まって歓迎した旨倉沢会長から報告があった。

(ロ)　ロナルド・ミッチェル博士は，1976年8月の第6回国際読書会議（シンガポール）の下見の途中に来日したもので，その国際会議には公用語として英語と日本語の二つを採用する方針であることを明らかにした上，日本から多数の発表者と参加者が得られるよう，協力を求めた。そこで日本読書学会としてもできる限りの努力をすること，発表者と司会者を合わせて10人程度をプログラムにのせるよう準備をすすめることが確認された。

(ハ)　IRA会員マソイヤ博士（ノースカロライナ大学教授）が急に来日し，学校の参観を希望してきたので2月28日に烏山北小学校を参観するようアレンジした。同校では，校長の出雲路常任理事が受け入れにあたる。以上のように阪本事務局長から報告があった。

公開研究会（3月15日）

午後2時より東京教育大学E館156号室で開催。講師深川恒喜理事，司会望月久貴副会長。主題「学校図書館を場とする読書の問題」

常任理事会（3月15日）

出席　倉沢会長　望月副会長　岡本　阪本　滑川　増田各常任理事。

欠席　出雲路　福沢　室伏各常任理事。

(1)　常任理事会開催日の件

倉沢会長の提案で，常任理事会は原則として公開研究会のある日に，それに引きつづき開催することを申し合わせた。

(2)　ニュースレターの件

倉沢会長から，ニュースレターの題を「日本読書学会通信」とすることが提案され，了承された。4月2日に第1号を出すよう努力する。

(3)　第19回研究大会の件

今回の参加費は昨年と同様1,000円（会員外1,500円）とし，前納者も当日納入者も同じとする。但し本年から資料集は実費で販売するものとする。以上が承認された。

(4)　IRAニューヨーク大会の件

5月13～16日にニューヨークで開かれる第20回IRA年次大会に阪本事務局長が出席を予定している。また東京教育大学大学院金英子氏も出席の予定なので，二人を日本読書学会の代表として承認し手分けして事務的な会合にも出席するよう依頼することがきまった。

(6)　読書科学賞委員会の件

次のメンバーでこの委員会を正式に発足させ，読書科学賞規程の改正と本年度受賞候補者の選定を会長から委嘱することになった。

委員長　望月久貴

委　員　岡本奎六，尾原淳夫，倉沢栄吉，阪本一郎，阪本敬彦，滑川道夫，増田信一。

(7)　昭和50年度予算案，第19回大会予算案の件

この二件が阪本事務局長から提案され，事務局の提案の通り仮承認された。

昭和49年度における常任理事会出席状況

	出席回数	欠席回数
出雲路　猛	3	5
岡本　奎六	7	1
倉沢　栄吉	7	1
阪本　敬彦	6	2
滑川　道夫	7	1
福沢　周亮	2	6
増田　信一	6	2
室伏　　武	6	2
望月　久貴	7	1

公開研究会（4月19日）

午後2時より東京教育大学E館156号室で開催。講師本田和子氏（お茶の水女子大学），司会高木和子編集委員。主題「幼年文学と読み手の関係――前読書行為において成立するもの――」

常任理事会公（4月19日）

出席　倉沢会長　望月副会長　岡本　増田各常任理事。

欠席　出雲路　阪本　滑川　福沢　室伏各常任理事。

(1)　IRAニューヨーク大会の件

倉沢会長の参加が急にきまったので，学会を代表して公式行事に出席するよう依頼した。5月10日出発　22日帰国予定。

なお，金英子会員は会長と同日程，阪本事務局長は5月3日出発，22日帰国予定。

(2)　地方公開研究会の件

秋に一度大阪で行なえるよう岩坪昭子，浜中重信両会員に打診してある旨倉沢会長から報告があった。

(3)　第6回国際読書会議の件

(イ)　この会議の発表申込みは4月1日に締切られたが，2月25日の常任理事会の決定に基づき，日本語が公用語として採用された場合約10名の日本代表をプログラムにのせるよう申し入れたところ，おおむね了承したという返信があった。そこですでに正式に申しこみをすませた村石理事，阪本事務局長を除く8名の発表者につき，会員や過去の大会発表者等から希望をつのることにった。

(ロ)　ウィーンで開かれたシンガポール大会の企画委員会の席上で阪本事務局長が検討を依頼されてきたシンポジウム「マスメディアと読書」について，企画委員長ファイテルソン博士（イスラエル）から返事の督促があった旨報告された。しかしこの問題はなお検討を要するので，倉沢会長と阪本事務局長に処理を一任した。

(ハ)　各国語の読みの初歩をいかに教えるかについてのデモンストレーションを行いたい旨，ファイテルソン博士から依頼があった。討議の結果前向きに検討することになった。

(4) 常任理事会の開催日について

3月15日の常任理事会で，原則として公開研究会に引きつづき開催することに決まったが，土曜日が定期的につごうの悪い常任理事があり，その一部から辞意を表明されたので，全常任理事のつごうのよい曜日を調査し開催日を決め直すことが阪本事務局長から提案された。しかし，土曜でないとつごうの悪い方もあるので，一応調査することだけを承認し，開催日については追って検討することになった。

公開研究会（6月7日）

午後2時から東京教育大学E館156号室で開催。講師石川弘義氏（成城大学），司会佐藤泰正理事。主題「大衆と読書」

常任理事会（6月7日）

出席 倉沢会長 望月副会長 出雲路 岡本 阪本各常任理事。

欠席 滑川 福沢 増田 室伏各常任理事

(1) 第19回研究大会の件

発表申込が〆切日までに10件しかないため，役員が積極的に発表するよう依頼することになった。

(2) 阪本一郎賞の件

従来「読書科学賞」副賞としてとりあつかってきた「阪本一郎賞」について，阪本名誉会長から，下記のように内規を改めて，「読書科学研究奨励賞」の副賞に変更したいとの申し出があり，これを了承した。この変更は，本年度の受賞から有効とする。

「阪本一郎賞」内規

1. 「読書科学研究奨励賞」には副賞として「阪本一郎賞」を贈呈する。
2. 前条の副賞は阪本一郎名儀の銀行貸付信託予金壱百万円の利子の寄付を受け，これに当てる。
3. 第1条「読書科学研究奨励賞」の該当者がない年度には，その利子は翌年度に繰越す。また該当者が複数であった場合は，本会の正会員を優先する。また本会の正会員が複数であった場合は，該当者に等分する。
4. 「阪本一郎賞」の寄付は日本読書学会の存続期間とする。ただし学会の意志によってこれを止めることができる。

(3) 本年度読書科学賞選考の件

読書科学委員会（望月久貴委員長）によって，規程改正に関するアンケート調査に行なってきたが，現在のところ同規程の改正は必要としないとの結論に達した旨望月副会長から報告があり，これを了承した。そこで従来通りの方法で本年度の受賞者を選考することとし，7月の常任理事会までに，役員・委員に受賞候補者のすいせんを求めることを同委員会に依嘱した。

(4) シンガポール大会発表者の件

4月22日付書状で役員に発表におすすめしたところ，6月7日までに4件（阪本一郎，滑川道夫，倉沢栄吉，尾原淳夫）の申しこみがあった旨阪本事務局長から報告があった。なお数名の方に発表にすすめると共に，現場からも発表者をたてるよう，前向きに努力することにきめた。

(5) 日本読書学会通信の件

第1号は4月1日付で発行された旨阪本事務局長から報告があった。第2号は，倉沢会長，阪本事務局長，金英子会員が出席した，IRAニューヨーク大会の報告と，来年のシンガポール大会の予告を中心として，早急に編集を進め，発行を急ぐことがきまった。

(6) ピロネク博士の受け入れの件

カナダからフローレンス・ピロネク博士（ブリティッシュコロンビア大学教授）が来日し日本読書学会会員に講演したい旨申し入れがあったが，公開研究会の講師はすでにきまっていたので，6月25日に世田谷区立烏山北小学校（出雲路猛校長）の見学にひきつづき，午後6時から茗渓会館で講演会とレセプションを開くことにきまった。講演会は役員と会員有志に公開する。レセプションは会費2,000円で役員に案内状を出す。

(7) 日米読書会議の件

IRAニューヨーク大会の際，阪本事務局長がラルフ

・スタイガーＩＲＡ事務総長に会見し，来年の夏の日本読書学会第20回研究大会は，シンガポール国際会議に参加するアメリカ代表団の旅程（東京滞在期間）に合わせて開催したいこと，これをきっかけに，定期的に日米読書会議を開催したいことを申し入れた。これに対して，スタイガー博士からは，日本読書学会第20回大会を国際的な催しにするのは賛成であるが，日米と二か国に限るような印象を与えることには反対であり，その他の国々，カナダ・英国・ドイツ・デンマーク等々も同じように受け入れてほしいとの返答があった。以上のように阪本事務局長から報告があった。

常任理事会（6月25日）

出席　倉沢会長，阪本，増田両常任理事

欠席　望月副会長，出雲路，岡本，滑川，福沢，室伏各常任理事。

(1)　第19回研究大会の件

大会発表資料集は，増田常任理事が作成することを決定。7月10日がぎりぎりの〆切日なので，発表者にとくそく状を出す。

(2)　シンガポール大会発表者の件

増田常任理事から，現場からの発表者として，岩坪昭子，嶋路和夫，伊藤みつ子の三氏に発表をすすめたとの報告があった。三氏とも，チャンスが与えられれば，発表したいとの返事であったという。

ピロネク博士講演会（6月25日）

午後6時から茗渓会館で開催。司会と通訳阪本事務局長。主題「カナダにおける読みのプログラム」倉沢会長，増田常任理事のほか，烏山北小学校の先生方が出席。講演に引きつづき歓迎パーティを行なった。

公開研究会（7月5日）

午後2時より東京教育大学Ｅ館156号室で開催。講師山本晴雄監事，司会平沢薫監事。主題「読書と人間改造」

常任理事会（7月16日）

出席　倉沢会長，望月副会長，出雲路，岡本，阪本，福沢，増田，室伏各常任理事。

欠席　滑川常任理事。

(1)　読書科学刊行の件

第18巻3号（通巻69号，昭和49年12月30日付）は，阪本事務局長渡米のため刊行がさらに遅れ，このほど7か月の遅れでようやく刊行された。第70号は原稿が集まり編集中。第71号は原稿が一本もない。以上のように室伏編集委員長から報告があった。

(2)　第19回研究大会の件

プログラムの発送を完了し，資料集の作成中。順調に準備が定められている旨報告があった。

(3)　昭和48年度決算報告，第18回大会決算報告，昭和50年度予算案の件

下記の通り阪本事務局長から提案があり，原案通り可決した。

昭和49年度決算報告

収入		1,914,080円
内訳	くりこし金	2,611円
	会費	584,500円
	賛助会費	1,200,000円
	売上会	58,700円
	利子	8,269円
	寄附金	60.000円
支出		1,908,391円
内訳	機関誌出版配布費	1,124,064円
	人件費	312,360円
	通信費交通費	82,905円
	印刷費消耗品費	37,590円
	本部運営費	91,307円
	公開研究会費	58,297円
	第18回研究大会補助金	181,868円
	第19回研究大会会場費内金	20.000円
差引		5,689円

第18回研究大会決算

収入		327,868円
内訳	参会費	103,500円

	懇親会費	42,500円
	本部より補助金	181,868円
支出	327,868円	
内訳	大会案内印刷費	3,310円
	プログラム印刷費	73,830円
	資料集印刷費	20,000円
	その他印刷費	2,140円
	送料	38,812円
	準備アルバイト代	21,680円
	当日アルバイト代	24,920円
	懇親会費	78,360円
	理事会費	10,200円
	会合費・弁当代	31,130円
	交通費・運搬費	5,150円
	文具費	14,755円
	雑費	1,000円
	会場費	2,581円
差引	0円	

昭和50年度予算

収入	2,464,689円	
内訳	くりこし金	5,689円
	会費	1,000,000円
	賛助会費	1,380,000円
	売上金	70,000円
	利子	9,000円
支出	2,464,689円	
内訳	機関誌出版配布費	1,200,000円
	人件費	500,000円
	通信費・交通費	80,000円
	印刷費・消耗品費	60,000円
	本部運営費	120,000円
	公開研究会費	100,000円
	第19回研究大会補助金	230,000円
	第20回大会会場費内金	20,000円
	日本読書学会通信出版配布費	150,000円
	雑費	4,689円
差引	0円	

(3) 会則改正の件

物価が上り，学会の会計にも重大な影響を与えている。特に近く予定されている送料の値上げに備えて次のように会則を改正し，会費を昭和51年度から値上げしたい旨，阪本事務局長から提案があり，可決された。

(旧) 会則第18条　会費は当分の間年額2,000円とし……

(新) 会則第18条　会費は当分の間年額2,500円とし……

(4) 読書科学賞の件

読書科学賞委員会（望月久貴委員長）が行なったアンケートの結果について検討し，本年度の読書科学賞は該当者なしと決定。また読書科学研究奨励賞は福沢周亮氏の「教育漢字における読字学習のための基本語彙に関する研究」（読書科学67・68合併号）が受賞ときまった。なお，次回の読書科学賞選考には，もっと多くの情報を集められるように，読書科学賞委員会が検討すべきであるとの，附帯意見が出された。

(5) 事務局幹事の件

事務局長を補佐するため，事務局幹事をおくことが承認され，有沢俊太郎氏（東京教育大学助手）にお願いすることになった。

(6) 阪本名誉会長をＩＲＡ国際賞にすいせんする件

ＩＲＡの国際賞受賞候補者に阪本名誉会長をすいせんすることが承認された。手つづき上，すいせんはＩＲＡ会員倉沢，望月，出雲路，阪本，福沢，室伏各理事とし，すいせん文の作成は阪本事務局長に一任された。

日本読書学会第19回研究大会

主　催　日本読書学会

後　援　文部省・東京都教育委員会

と　き　8月1日(金)～2日(土)2日間

ところ　私学会館

8月1日(金)

午　前　講堂　　司会　湊　吉正

10：00　主体的読書人の育成をめざして
東京都中野区立桃丘小学校　中原　国明
10：30　小学校6年生の放課後の読書時間――1週間の生活時間調査から――
京都市立唐橋小学校　木村　稔
11：00　小学校における読書感想文の指導
大阪市立教育研究所　岩坪　昭子
11：30　読書感想文の評価基準
東京学芸大学附属大泉中学校　増田　信一
12：00　ひとりひとり全員がいろいろの本をたのしくおもしろく利用する
東京都大田区立石川台中学校　大村　はま

午　前　702号室　司会　高木　和子
10：00　音読について　東京教育大学　有沢俊太郎
10：30　秋田喜三郎「国語教育実践理論」の現代的意義――読方学習と読書の指導――
滋賀大学附属中学校　山本　稔
11：00　人物の深さの係数について――物語絵本の研究のために――
立正学園女子短期大学　阪本　一郎

午　後　701号室
0：30　理事会

午　後　講堂
1：30　総会
2：30　講演
「読書論」　哲学者　谷川　徹三
4：00　懇親会（703号室）

8月2日(土)

午　前　講堂　司会　福沢　周亮
10：00　読書によって人生を考える――漱石の「こころ」について，国語学習の発展として――
新潟県立高田北城高等学校　早津　秀雄
10：30　文芸的文章による自然教育の可能性について
二松学舎大学　飛田　文雄
11：00　読みの教育目標の分類モデル
成城大学　岡本　奎六
11：30　日本人の読みのタイプ
大阪市立東淀工業高等学校　尾原　淳夫

午　前　702号室　司会　増田　信一
10：00　読書療法と家族力動
○青山学院大学　荒瀬　玲子
千葉家庭裁判所　大神　貞男
10：30　読書療法の効果的な実践的手続はいかにあるべきか　○千葉家庭裁判所　大神　貞男
青山学院大学　荒瀬　玲子

午　後　講堂
2：00　シンポジウム「生涯教育と読書」
発言者　児童文学者　今西　祐行
東京大学　平沢　薫
武蔵野女子大学　深川　恒喜
司会　東京学芸大学　望月　久貴

昭和50年度理事会（8月1日）

出席　倉沢会長　望月副会長　岡本　阪本　滑川　福沢　増田各常任理事　今村　大村　野地各理事　山本監事
欠席　出雲路　室伏両常任理事　大神　岡田　尾原　輿水　佐藤　深川　椋　村石各理事　平沢監事。
議事　下記の総会の議事と同じ。いずれも提案または報告の通り可決した。

日本読書学会昭和50年度総会

Ⅰ　議長選出　増田信一常任理事
野地潤家理事を議長に選出した。
Ⅱ　会長あいさつ　倉沢栄吉会長
Ⅲ　議　事
(1)　昭和49年度事業報告　岡本奎六常任理事
(2)　昭和49年度決算報告　阪本敬彦常任理事
(3)　監査報告　山本晴雄監事
(4)　昭和50年度事業計画案　岡本奎六常任理事
(5)　昭和50年度予算案　阪本敬彦常任理事
(6)　会則改正の件　阪本敬彦常任理事
(7)　その他
Ⅳ　第9回読書科学賞授賞式

(1) 選考報告　望月久貴副会長

(2)授賞　倉沢栄吉会長

第9回読書科学賞

読書科学研究奨励賞　福沢周亮殿

あなたは本学会機関誌「読書科学」の第67・68合併号に「教育漢字における読字学習のための基本語彙に関する研究」を発表されました。この論文は読書の科学的研究の今後に寄与するところ大なるものがあります。その業績に対してここに読書科学研究奨励賞を贈り表彰いたします。

昭和50年8月1日

日本読書学会理事長　倉沢　栄吉

公開研究会（9月20日）

午後2時より東京教育大学E館375号室で開催。講師石竹光江氏（博報児童教育振興会），司会出雲路猛常任理事。主題「幼児のための読み聞かせの技術」

「読書科学」編集規程

1. 本誌は，日本読書学会の機関誌であって，1年1巻として，4回（3，6，9，12月）発行する。
2. 本誌は，原則として本会の会員の読書科学に関する論文の発表にあてる。
3. 本誌は，原著論文，実践報告，シンポジュム，展望，資料，文献紹介，学会情報，会務報告などの欄を設ける。
4. 原稿は，未だ他に公刊されないものに限る。
5. 原稿は，編集委員会の選考を経て掲載する。また，原稿に添削を加えることがある。ただし，大きな変更は，執筆者と相談する。
6. 印刷の体裁は，編集委員会に一任する。
7. 図・表など，特に費用を要するものは，執筆者の負担とする。
8. 原稿執筆者には，掲載誌10部を贈呈する。
9. 本誌に掲載された論文は，無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
10. 本誌の編集事務についての通信は，日本読書学会編集委員会（〒112 東京都文京区音羽2—12—21 野間教育研究所内）あてとすること。

「読書科学」執筆要項

1. 論文の長さは，原則として400字詰原稿用紙30枚までとする。
2. 原稿は，横書きとし，提出後訂正を要しないように字句内容を明確にすること。
3. 叙述は，論文にふさわしく，簡潔にし，図・表など最少限にとどめ，本文と図・表の無意味な重複をさけること。
4. 図は，そのまま製版できるように，半透明の用紙に黒インクで書くこと。
5. 主要な用語，外国の人名，地名などの固有名詞は，原語を初出のときだけに付けること。
6. 数字は，算用数字を用いること。
7. 原稿には，要約を200字以内に付すること。
8. 引用文献は，論文の最後に，アルファベット順に一括して付すること。
   文献の記述形式は，次のようにすること。
   a 単行書
   著者 書名 出版社 出版年 ページの指示
   b 編さん書中の論文
   著者 論題名 （著(編)者 書名 出版社 出版年 ページの指示）
   c 雑誌記事
   著者 論題名 誌名 巻 号 ページの指示 年 月 日（注，外国雑誌名は，イタリックの指示をすること）
9. 論題，所属，氏名の英文を付すること。
10. 原著論文については，英文の要約を600語以内に付すること。
    英文の要約は，次のようにする。
    a 白紙に，1行おきにタイプする。
    b 必ず邦訳を添えること。
    c 英文に熟達した人の校閲を経ていること。
11. 原稿は日本読書学会編集委員会（〒112 東京都文京区音羽2—12—21 野間教育研究所内）あてに送付すること。

Vol. 19, No. 1・2 October, 1975

THE SCIENCE OF READING

Published by **The Japan Reading Association**

President: Eikichi Kurasawa **President-elect:** Hisataka Mochizuki

EDITORS

Takahiko Sakamoto Kazuko Takagi Shinichi Masuda
Takeshi Murofushi John Downing Donald Leton

CONTENTS

Original Articles

Mother's concern about picture books……
IZUMOJI, Takeshi, TAKENOYA, Machiko and MITSUI, Kazuko…… 1

A study of teachers' opinion of book reports ……*MASUDA, Shinichi*……13

Story roots and character-depth for the assessment of story-picture books
……*SAKAMOTO, Ichiro*……24

Records

On "Reading and Character Formation" by Haruo Yamamoto ……32

Directory of the Japan Reading Association……34

Official Notes ……62

THE SCIENCE OF READING is published four times a year (with an occasional combined-number issue) as a service to members of the Japan Reading Association. Membership in the Japan Reading Association is open to anyone concerned with reading. Annual membership dues of U. S. $10.00 include a subscription to THE SCIENCE OF READING. Please send all correspondence and membership applications to Takahiko Sakamoto, Japan Reading Association, Noma-ken, Kodansha, 2-12-21 Otowa, Bunkyo, Tokyo, Japan.

第19巻 第1・2号

<通巻 第71・72号>

昭和50年10月1日 発行

会員頒布

編 集 日本読書学会編集委員会
発 行 人 阪 本 一 郎
発 行 所 日 本 読 書 学 会
〒112
東京都文京区音羽2—12—21
野間教育研究所内
振替東京6-3213番

印刷・第一印刷株式会社